新編
古風
談林
正風
誹家大系圖
上

人 利
2971
1冊

御裳濯川やか茂若なきの緒巻にかゝる三勝世
に淀みなく東まで手に掬せてぞ原の澄をば
志りハ御稜威の睢を酒を響あまて風の
楽のかくる道をとま木枯風の中の花を賑む
なきの緒のまとこのなかる神路の山若変むら百年
建御雷乃幸見をとな営む爪しきれ敷島倭歌の
道に合る漲り弥ら浸の千あかれて国まゝも其
八雲垣の指を及て残作くことにかゝる世の流
数てふも段二すら殊の神元をとめ残元をとこ逢

と定られしより世上つれ〳〵の慰となりてそのなかれ
つたふに來りし頃守武の両士至りて柵を出し壇を
接て俳諧の格式を立られて後より中興
貞徳翁出て凄しくも淀川の淵と成なりて波濤を
あまた高名の師其々出て西山宗因檀林の
一流時に好まれ後に芭蕉翁出て正風を發し
諸人此翁の恰もあふぐ海の廣きが如く流出るが如く
其に從ふ事を及すくされば此つきせる者ども
數多あれど師あまたになれども其世より古老人の

一つの號を其名の今に至りていつまでの
流なるを混雜し其やうになりて俳諧同好の友
其外川莫明寄に市中にあるを得さまにする人の
古老を悲し此世の常にあるらんとなし
その人々此翁の名をあげ家々に私あるを集め姓氏
事蹟沒年等を詳にし論て俳家大系圖となすを
予去年川流の柳かげに此編集るをみるによりて北川
龍田の洋々と廣しと林鹿樹翁閣諸家を潤す
のいまだ原を濫吹出で流名家のあなく明を淫す

むら狸十いまやのたかいつ年世尓廣うなさせしめの志
まめ女のなる利誠尓古へなる此手跡如きハ天下にありしと
其労ハいさゝか甚きんらうをしめおろかも筆を躍て
至硯の海のなんくと汲めてこの大意をしるし述す
画なく恥をふかきなる哉

天保九戊戌のとし

東武の住
其楼寫峯筆

見ゆからみをし出

俳諧（ハイカイ）乃道（ミチ）ふ名（ナ）ある人数（ヒトカズ）かぎりなくおほかる
然るに我今此世（ヨ）にあるもなのべてた芭蕉（ハセヲ）の翁（オキナ）れ
およびて十哲（トテツ）乃ひとしへ子なる其のまとのことに常（ツ子）に
法わをしめれどもみちの人々にはふるくのそれとよ
里にふみ近（チカ）きよりゆめのえ（キコ）する人がらかれ依ろ
なるはいろふぞやかの花（ハナ）開（サキ）乃翁（オキナ）かまのはあるし
貞徳（テイトク）のうし守（モリ）武（タケ）宗鑑（ソウカン）の油火（アブラヒ）をとらし

此道(コノミチ)をひらかれたる宗因(ソウイン)桃青(トウセイ)の翁(オキナ)ハその餘(ヒカ)
光(リ)によりておのがまゝにおのが誉(ホマレ)ほしさはいはれぬ
利をはかれば石上(イソノカミ)家の人ともよろずに見苦しき
わざとの風雅(ミヤビ)男(ヲ)めきハいとおそれおほきまじくや松の葉を
集(アツメ)し後此(コノ)に残されたる事におよそのこの埋(ウズモ)
れるいとよし今(イマ)此人こそ浅茅原(アサジハラ)清少納言に似
はかなしくも残くみ給ふなどちよの利くちく
清らかでそゞろに此一書(コノヒトフミ)とはなしぬ志のを

ひろまでとなか神代の言葉よりとかうかくなまし源(ミナモト)とし
もうかくふかおびたゞしく海しく此よどみあはくはやの
くいわゆるがかけて事ありとおもふかあ理考ふた
し清もみえぬべくおぼゆるハ和しんがけにはひさん気
るもひろまればあやまれるこれともやとおもふ様にふなむ
みえぬるもいとよふたがひさおやの人(ワカウド)のわざふしゝ誌れ
ばいもやつとハおもふなむ

天保九年弥生五日

笠川春明

初集前後二巻引用書目錄

犬筑波集
發句帳
淀川
底ぬけ臼
紅梅千句
郡山
花月千句
玉海集
築子千句
鵜鷺千句
●土塵集
三十六俳仙
●砂金俤
●常盤草
鸚鵡集

守武千句
鷹筑波集
毛吹草
北野試筆
正章独吟千句
●口真似草
崑山集
玉海集追加
木玉千句
立圃諸国万句
祇園奉納誹諧合
歸花千句
砂金俤後集
古鑑
●道連集

犬子集
初学鈔
毛吹草追加
●二方二千句
氷室守
山乃井
美濃郡
●拳直集
慈父追善九百韻
立圃都万句
●埋草
●懐子集
●五條百句
●尾陽句帳
佐夜中山集

絲瓜草
片言
続山乃井
初元結
浪花三十六俳仙
•到来集
•拾玉集
•慕啓集
入聟集
和歌竹集
物忘草
柾木葛
雑巾
玉くしげ
詞友集
新続独吟集

•境界集
•さゞれいし
•落穂集
十種千句
•根なし草
•小町をどり
•名取川
百人一句
彤見草
公界集
眉入奉公
大海集
ちやゝや
新続犬筑波集
続詞友集
釋教百韻

•続境界集
増山の井
山下水
•唐人をどり
•遠近集
•早梅集
•鄙諺集
新百人一句
世話焼草
古今百句集
大長刀
•捨子集
思出草
十會集
続独吟集
•誌心集

吉野山独案内
俳諧小式
西行谷一万句
鹿驚草
•鋸屑
続大和頌礼集
一時雨百韻
宗因句集
河内名所集
おとく
アタ花千句
中庸姿
御田扇
•大井川
俳諧京羽二重鉄本
藤波集

紙屋川水車千句
寛伍集
伊勢山田六人六百韻
御傘大全
•鉋屑
狂遊集
太郎五百韻
檀林十百韻
延宝二十歌仙
•櫻千句
•誹諧師手鑑
•短綫集
空ぐら
浪花色紙百人一句
古とひ牛
縄すゝれ

大坂独吟集
•雀子集
加友判百韻
•武蔵野集
大和頌礼集
誹諧蒙求
次郎五百韻
破邪顕正
十歌仙谷盃
•四名集
•イスカノ觜
重栄歌仙發句
•今様姿
ゆふむつかし
京の水
江水百人一句

一橋
陸奥千鳥
誹諧秘蓉
類柑子
桃青一代記
源氏鬚鑑
三番続前句附
和漢文操
皮籠すれ
本朝文鑑
鳥山彦
花摘
一騎折
ぬき参
雑談集
拾遺家譜補

時代不同發句合
梟日記
餞別五百韻
枯尾花
行状記
塗笠
万歳楽附合
たつのうら
初心もと柏
木花集
不角百人一句
其傘
空栗
幸佐品定
家譜
後拾遺家譜

苗代水
歴代滑稽傳
家の風
荒野集
徒姿
日本行脚文集
三河小町
杷萱
鬼貫独言
小傘
綾錦
年挑燈
続空栗
風俗文選
拾遺家譜
今宮草

山水付合
男振
橋暦
籠ぬけ
●芦花集
●如意宝珠
新玉海集
雅延酔狂集
一華堂選道遊集
後撰夷曲集
卜養狂歌集
貞柳後家土産
可笑記
京羽二重
浪花雀
浪花鑑

江戸土産
漢和付合
江戸紫
似錦集
諸国独吟集
●空林風葉集
●住吉とより
●かくれがゆ
類従本道遊集
つきくさ草直解
卜養狂歌拾遺集
勢陽里言
山州名迹志
京羽二重織留
浪花霍
東海道名所記

扨群立
後集絵合千百韻
吉慶独吟集
而形集
幽山江戸八百韻
誹諧新式
●櫻鑑
蔵恩記
古今夷曲集
曽呂利狂歌咄
貞柳家土産
買物調方三合集覧
都独案内（此案内者トハ別ナリ）
正徳板京羽二重
浪花霍跡追
国花万葉記

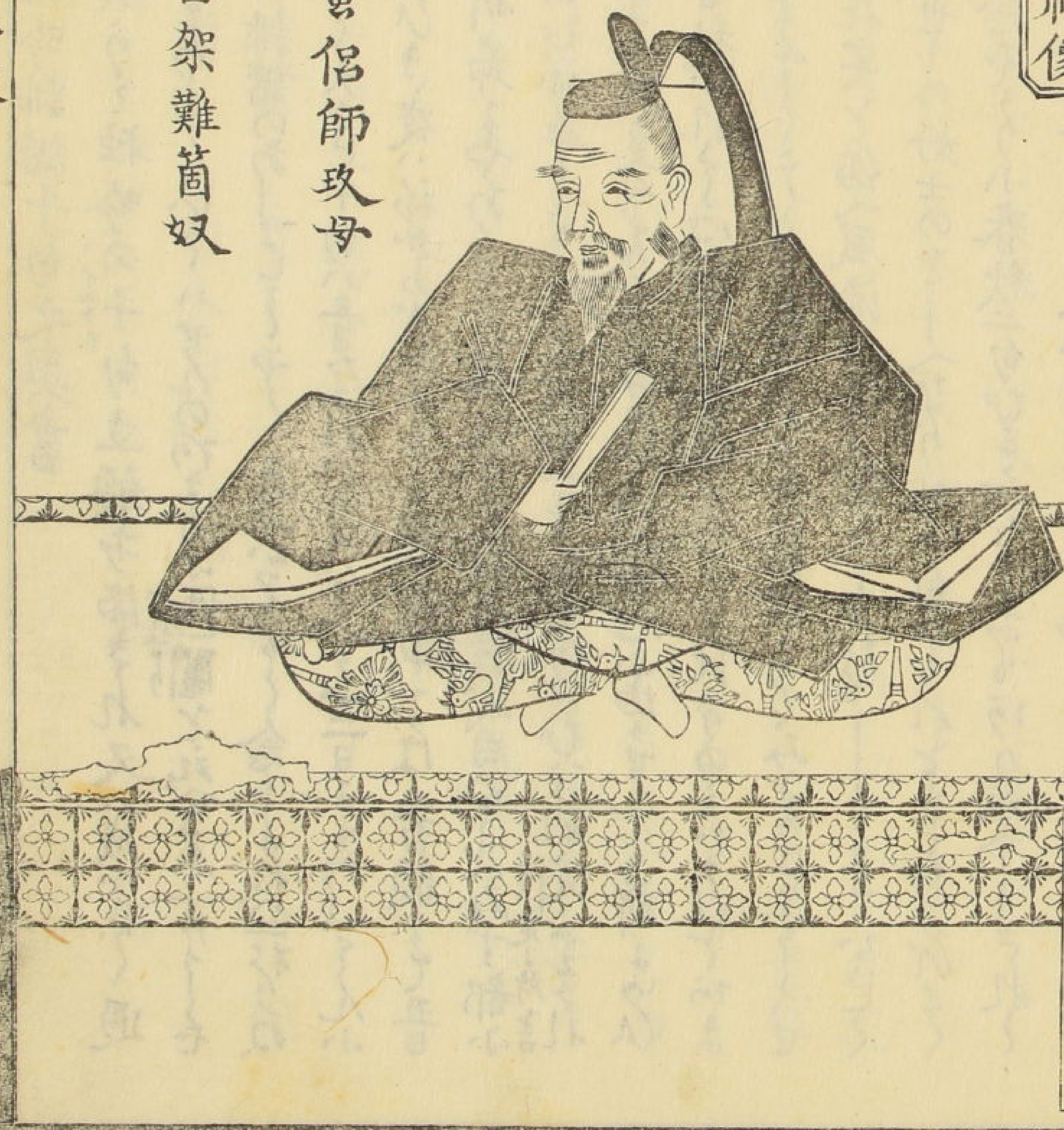
江戸鹿子　江戸図鑑綱目　人倫訓蒙図彙
本朝武士鑑　武道傳来記　顕傳明名録
平澤系圖　知譜拙記　多我身之上
義人録　雍州府志　奈良名所八重櫻
俳人名録　古集作者盡　俳人無名書
江戸某俳諧藏書目録　古今短冊集　京童跡追
怪談諸国物語　貞徳永代記鈌本　俳論
道枝折　俳諧古選　俳諧近選
東庸子　寛文十年書籍目録　延宝三年書籍目録
天和二年書籍目録　貞享二年書籍目録　元録五年書籍目録
元禄九年書籍目録　宝永八年書籍目録　正徳五年書籍目録
享保十四年書籍目録　宝暦四年書籍目録　合類書籍目録

通計二百七十三部

引用スル所ノ書名コノ限リニアラズトイヘドモムゲニ近キモノハ是ヲ挙(アゲ)ズ
又書名ノ首ニ●ヲツケシハ俳諧古集作者盡ノ引書ナリ
初集引用書目録終

鼻祖守武長官之神像

渡毘烏賣耶迦路登侶師玖母
荷美乃幡留
宇虞比珠能年數百架難箇奴
裒鄧刀蟻秀



春明謹寫

守武獨吟誹諧千句之奥書

右の誹諧ハ其かミ独吟の千句立願ニ侍きれ又ハ成がたく過しけるも空おそろしくいそハせんのあまりに御鬮をとるべきに一なりしも本より二なけれバ誹諧のあはしをふかく哀二たびもなく念じけれバ二なりぬ有難き限りなく大かた千句ハ三日なれど是ハまづ二日にもたらざるにおもひの外なかびき夜ハ初ざあがちにかり庚申にハ三百韻にて五百につくりぬ其折節にやありけん周桂にハ此道の式目ゆるしみず都にをいそぎ大形のむ初尋しかバかゝる式目ハ字ごそかさむへかれ定まる所なれと用べきのぞれてる返事なりあらせたしバ此友心にかなひせんと所よりひあしハせる俗言私びれてる心詞一句彷彿うつなれすのこそなれどいまだの中なきてだうすくこくおませりわさて誹諧とてみだりはじむるハせむしろ斗ハからず花実を備へ風流ふして然も一句たゞしくさておかしくあらむやうに世々の好士のをしへなり此千句ハそれをもとどめべとく満しさき一念だけり小春秋二句むすびてる而も行りぬべしされど正風雅人の耳にも入まじきふいさゝうも作へんハそうつぎるさへちひなしんや其上粉骨妙句なきふしもあしひ又作しあひも時代なれるべきにやさいてたかやさんも桃心いまで之然ゆ誹諧なりふてもなき治なりしこのまぎるかとの言種なれど何かまる世中言なるんや本連歌に露かそる為らしず大変あり本連歌第載このまて心ものひ他会なくさして長座にハ必ずよくおもし庭鳥啼からつおまたのしし夢をさせむ鉀入に一橋を打きるゝ宗硯ハ文かよをしの自讃に入相の鐘をこしまさし宗鑑より麼て發句あじ下し侍りちかくハ宗牧一二座をがさしてあらたをたよりとりてありひなる支侍るたまり追加五十韻ありけれど祇公も三島にて千句二折をおもひわる物なりし毎古来独吟の千句成就稀の正本のうつり目出度やまべしん　以上

○

初學抄

寛永十八年印本　帆亭徳元編

聲たしバ鷺こそゆきのひとつく社　宗鑑

犬筑波集

永正年間撰　古印本　寛永ノ頃歟

卯月きて祢ぶしみなくや時鳥　同

右時鳥ノ句ハ本春ヵ俳仙ヲ以テ証トス

犬子集

稱名院ハ道遙院ノ謬ナリ三條西内大臣実隆公御コトナリ

寛永十年印本　松江重頼撰下之巻

稱名院殿ヘ宗鑑法師始て伺候の時宗長法師伴ひて侍り出けるに稱名院殿御當座

宗鑑が姿を見ればがきつばた

のまんとすれどなつの澤みづ

蛇りしおそれくいづちへくるらむ

右脇ハ宗長弟三ハ宗鑑云々以上犬子集ニ載

○

崑山集

慶安四年撰明暦二年印本　長頭丸より天水と云誹の道の一巻をまきされるひしきの會に

天水のわじやかさじけ梨花　鷄冠井　良德

玉海集

一之巻春ノ部　いよしとし先師長頭丸より誹諧ゆるりたの名を得しと人ずなき身のかざり葉

ともおもひあし侍るんを

接とめてそふぞめいおくの花春　安原　貞室

○貞德翁ノ名句ハ諸書ニ出テ人ヨク知ル所ナレハ畧ス

松永氏逍遊軒貞德翁

又長頭丸　明心居士

鷹筑波集

寛永十五年撰同十九年印本二巻

長頭丸の壽像をうつせるおび百よびいるみ侍ひぬれども年月かけし所望せしに

秣がいくハ我がはの世ハ風となりて月といへるし花ハちらさじ　貞德

前ニ摹寫すル花咲翁ノ壽像ハ元禄六年京師ノ俳士堀江林鴻ノアラハセル永代記返答しらむつらし上巻ニミエタリ 又後拾遺俳諧家譜ニモ翁ノ像アリコレハ洛南上鳥羽邑實相寺傳フル所ノ木像ヲ摹寫スル所トミユレト麁画ニテ微細ナラスヨリテ爰ニハモラス

玉海集

明暦二年印本　安原貞室撰冬ノ部三之巻

先師貞徳居士の像をうつし侍りて霜月十五日の忌日にかけ追善の會を催しける

霜月乃かねに御影やいきうつし　　遊谷安明

京童跡追

寛文七年印本

俳乃好人長頭磨の像をうつし侍るやしき表補繪して與行のときのうけ物なるに予に讃せよとあるま[?]ゝ侍るを心うけそれしていつ[?]のうら[?]かゝる一画畾とえ[?]る末廣紙をてうらさるゝその礼紙にかきつく

末ひろや詞の花の御かうがさ　　中川喜雲

續連珠

延宝四年印本　夏之部五巻

花咲翁乃像に蓮葉をそへまつるとてなつかしも志る何のもとの君子の花　　北村季吟

難波俳林
松寿軒西鶴

辞世　人間五十年の究り其さへ我にはあまりたるにましてや

浮世の月見過しにけり末二年

元禄六年八月十日　五十二才

追善発句

月に尽ぬ世がらや二万三千句　　如貞

念仏きくほどは秋はおくれく　　幸方

秋や日の名残記作れ死出の旅　　万海

世の事や筆の命れ取所　　信徳

味いふの頃たつる月と筆の漫言　　言水

東玉暑

底や此櫟ハ折もれ秋の風　　才麿

力たのや松をたなるゝ苔の　　團水

宗因句集

西山宗因翁ノ壽像未得コレニヨリテ元禄六年平元堂團水ノ刻セル

置土産ニ見エタル西鶴ノ肖像ヲ臨冩シテコヽニ載

古冩本 當世の風躰年々日々處々（トコロ）にうつり更ゟ新しく

珍（メヅラ）しくかなりぬ老の耳みゞとおもしろく羨敷（ウラヤマ）し

あゞら初學人いぼれをよしと思ひ定むるかく

なしやとおぼへく

今筑波や鎌倉宗鑑ヶ犬ざくら　宗因

檀林十百韻

延宝三年印本　左ノ句宗因江戸ニ下リテノ吟ナリコレヨリ談林風トモ云又自梅翁ト称ス

ちればなりし檀林の木なり梅さな　同

破邪顕正

延宝七年印本　中嶋随流編「去年の夏大坂

宗因を高政宅へ請し一會有しに

末茂る守武流乃惣本寺　同

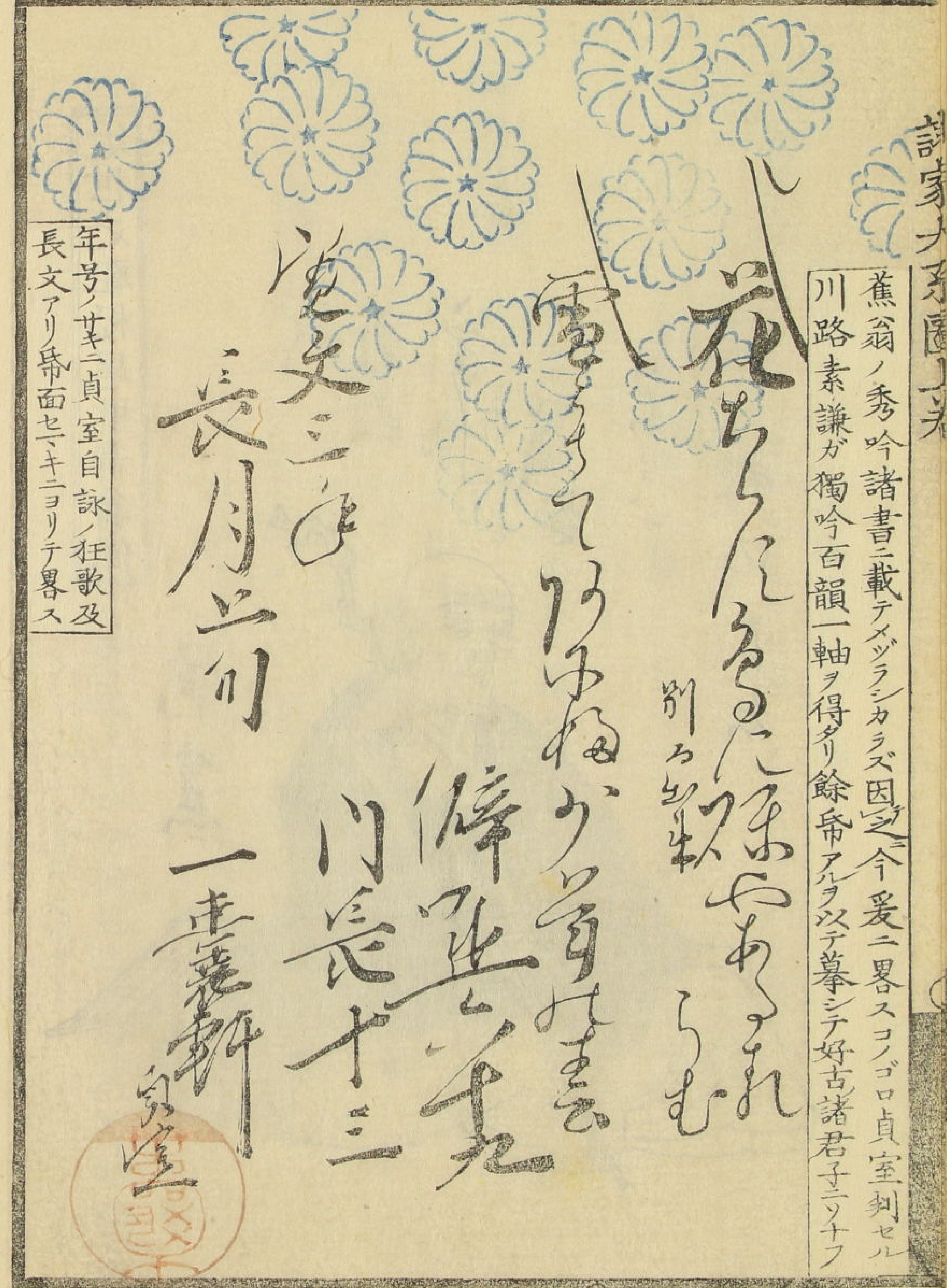
○春明云右ノ句ヨリ高政惣本寺半連傳社ト号ス

○

左ニ抄出スル芭蕉翁ノ壽像ハ江戸ノ俳林太白堂天野桃隣ノ

元禄九年刻行セル**むつちどり**二之巻ニ載タリ

近世之祖松尾桃青翁像



蕉翁ノ秀吟諸書ニ載テメヅラシカラズ因之今爰ニ畧スコノゴロ貞室判セル川路素謙ガ獨吟百韻一軸ヲ得タリ餘帋アルヲ以テ摹シテ好古諸君子ニソナフ

年号ノサキニ貞室自詠ノ狂歌及長文アリ帋面セマキニヨリテ畧ス

誹家大系圖上之巻

伊勢津　生川春明著

○誹諧權輿

守武

正四位上荒木田神主　五十鈴(イスヾ)　大宮(オホミヤ)ノ長官ナリ幼歳ヨリ明悟識量有テ師(キジマ)木嶋筑波(ツクバ)ノ二道ニ毎貝通シテ種玉菴宗祇法師ノ新撰筑波集ニ選ミイレラル復誹諧ニ委シク其頃マテハ二句三句ノ言捨ノミニテ定タル格ナカリシヲ天文九年ノ冬初テ独吟ニ千句ヲ連子テ此道ノ式ヲ定ム後世仰テ誹諧ノ祖神ト敬フ又大永五年一夜ニ百首ノ和歌ヲ詠シ一首ゴトニ世ノ中ノ二字ヲ讀イレ諸人ノ教誡トス傳テ伊勢論語トモ云　天文十八年己酉八月八日卒ス七十七歳

辞世　神路山我こしかたもゆくすゑも峯の松風

發句　あさがおにけふハみゆらん我世かな

○天文九年庚子ヨリ天保八年丁酉ニ至テ三百九十八年

∴宗鑑

復曰㒵祖ノナガレヲクム 杉木望都。松田利清。ノ輩及孫弟等中編ニ委シ

支那氏俗称ハ彌三郎名ハ範重薙髪シテ宗鑑ト更ム元佐々木ノ黨ナリ幼歳ノ頃足利義尚公ニ仕テ恩澤ヲ蒙ル後津ノ國尼ケ崎ニ住ス又西國ニオモムク帰路暫ク讃岐國琴引山ノ邉ニ止テ假ニ居ヲ卜シ一夜菴ト号ス晩年ニ及テ城南山崎巷闢戸ノ院ノ傍ニ閑居シテ専誹諧ヲ修ス家書 新撰犬筑波集 竹馬狂吟集 等アリ天文廿二年寂ス八十九歳京師天瑞寺ニ墓アリ宗鑑上座○行風法師ノ撰メル古今夷曲集 九之巻哀傷部 曰背ニ癰瘡出来て身まかる時詠る

辞世 宗鑑はどちへと人の問ならはちと用ありてあの世へといへ

○

∴梵益

姓氏詳ナラス山崎巷宗鑑カ遺跡ニ住ス

∴除風

梅盛。重頼。等ヲ友トシ専誹道ヲコトヽス承應年間ノ人也 正章ヲサアキラ貞室。実名 季吟。

姓氏詳ナラス百花坊ト号ス宗鑑カ旧跡讃岐ノ一夜菴ニ住ス東花坊支考 梟日記 元禄十一年卯本 オヨビ 和漢文櫟 ニ出タレハ美濃風ノ人ナルベケレド因アルヲ以爰ニ載ス

∴貞徳

○中興㒵祖 并直弟

松永氏幼名勝熊壮歳薙髪シテ松友ト号シ軒ヲ逍遊トナヅク晩年復髪ヲ束テ童服ヲ着シ自ラ呼テ延陀丸又長頭丸トモ云父ハ永種 摂州高槻刺史入江九郎盛重ノ男五郎政重長子後氏ヲ改テ松永ト称ス 母ハ播州宇野氏ノ女ナリ元亀二辛未年ヲ以テ京師ニ生ス蚤歳ヨリ師木嶋シキシマノ道ヲ好ミ 九條殿下玖山公。菊亭右相郷。細川玄旨法印。ヲ初トシテ師トスル人五十有餘人尤其精微ヲ得タリ殊ニ嚴父ノ志ヲ承テ連歌ヲ法眼紹巴ニ究ム始テ式ヲ連歌ニ撮リ格ヲ誹諧ニ定メ編集シテ名ヲ 御傘ト号ス始ハ三條大路ニ住シ後五條松原ノ北東洞院ノ東ニ移リ住ス花咲舎トモ云 家書 御傘

淀川 一名増犬兔玖波集トモ云 油かす 以上ヲ三部書トモ云

紅梅千句 百韻自註 前車集 天水鈔

源氏竟宴 堀川百首鈔 和歌宝珠 逍遊集

戴恩記 徒然草大意 同慰草 貞徳文章

承應二年癸巳十一月十五日行年八十三歳 洛南上鳥羽邑實

相寺ニ葬ル　碑面ニ曰逍遊軒貞徳居士
辞世　露の命きゆる夜の玉松翁子まびろけぬ出法あらなむ

親重

野々口氏俗称ハ雛屋庄右衛門（市兵衛）薙髪シテ立甫ト号ス又自松翁ト称ス弱冠ヨリ才智衆人ニ秀テ殊ニ紫女ノ源語ヲ好ミ著ス所ノ冊子文義ヨク通セリ一年重頼ト争論ニオヨヒ師翁ノ氣色ヲ損シテヨリ烏丸亞相郷ノ學窓ニ参リ教ヲ受テ一流ヲ起ス世ニ立甫風ト云　家書

		發句帳	花犬草
徳万歳	若きら孫	片輪車	花月千句
帰花千句	阿太花千句	筑子千句	碁歩花見
河ふ孫	江戸むらさ記	硯ちいく	追善九百韻
[redacted]誹諧	老鳥千句	空たぶて	都万句
万句	きりひうち	人真似	九曲折
花鳥千句	休息哥仙	鶉鷺千句	袖中記
美濃郡	三十六會句合	明鑑	源氏繪鈔

十帖源氏　等アリ寛文九年酉九月晦日没ス行年七十一歳
法名日祐居士或ハ日英 家譜 曰寛文十二年壬子三月十七日没スト

アレ氏誤ナリ 形見草 ヲ以テ改ム

重頼

辞世　月ちるの三日月を今うちる世ヲ那

松江氏俗称大文字屋治右衛門誹子又乳父子ト号ス晩年薙髪シテ維舟ト改メ自江翁ト称シ法橋ニ叙ス天性剛正ニシテ誤ヲ見テ止（トヾマル）事ナシ是ニヨリテ諸彦ト交ヲ断コト尤多シ師翁ノ席ヲ退キテヨリ里村懐恵菴ノ門人トナリ連歌ヲ学ヒ歌意ヲ専ニシテ一流ヲ立ツ　家書

犬子集	毛吹草	同追加	梅千世
菊千世	懐子	同とぎ	今様姿
名取川	佐夜中山	附リ梟久猴	大井川
溜池河御座	維舟随筆	武さし乃	浮世あぎなさ

等アリ延宝八年庚申六月廿九日没ス行年七十四歳
辞世　林翁をや菩提樹のうつまふむ法ちり
〇再曰親重重頼ノ二叟破門トナリシ事別ニ委シキ論アリ

正章

安原氏俗称鎰屋彦左衛門一嚢子或一嚢軒ト号ス三條通梅忠町ニ住ス一年芳野山ニ遊ヒコレハ〳〵ノ句ヲ吐テヨリ英名ヲ四

海ニ轉ス承應元年八月点業ヲ免サレ薙髪メ貞室ト号シ正傳ニ世花ノ本ヲ續グ師翁没メ後遺書［玉海集］七巻ヲ補選ス晩年病ミテ歿ントスル期我カキステシ筆蹟ヲ集テ火中スト

玉海集　同追加　百韻自註　家書
氷室守　五條百句　一名雪月花集　獨吟千句
附合大全　此一書写本ノヨシ池田是誰寛文二年印本［玉くしげ］ニアリ　片こと

延宝元年癸丑二月七日没ス行年六十四　實相寺牌面曰一囊軒
貞室　寛文又延宝二年ノ没トスルハ誤ナリ

辞世　今まてハ目みえせねども主人公もつくといひし年も明けり

〇再曰［歴代滑稽傳］ニ「安原貞室ハ中年迄それ〳〵と知らすて一とせ加州山中の湯主和泉屋又兵衛といふものゝ恥しめしを帰洛して貞徳の末の門人と成志あつくして終ニ此人は花の本を譲りて貞室となのると云々」此説誤ナリ貞室正保四年［獨吟千句］ノ跋ヲ見ルヘシ自ラ明ナリ

令徳

雛冠井氏通称九郎衛門初良徳後令ニ改ム陀隣軒ト号ス貞翁ノ愛弟ニシテ誹式天水鈔ヲ譲リ賜フ京師ノ人ナリ［崑山集］ニ崑山館トアルハ別号ニテ道可トアルハ法名欤尚考ベシ

家書　崑山集　土塵集
峯直集　親炙四十餘年　等アリ

延宝二年甲寅三月三日没行年六十八　或云延宝七年九十一

西武

山本氏俗称綿屋九郎左エ門剃髪シテ西武(ニシタケ)ヲ音ニ號ヘテ法名トス無外軒ト号ス三條東洞院蛸薬師ニ住ス曽テ蚕歳ヨリ師家ノ執筆ニ給ス故ニ秘決故實等悉ク傳習セリ翁ト正章ト西武トハ毎歳三物ヲ組テ他ニ許サス

家書　鷹筑波集
砂金袋　同後集　久留々　萩花
何迯草　阿波々千句　津似居兒　御傘西武補

没年不詳［家譜］ニ曰延宝六年戊午十二月十八日没行年七十三トアレト貞享二年印本［京羽二重］俳諧師ノ条ニ此叓出タレハ貞享ノ頃マテ存命セシ欤同書元禄二年ノ［織留］ニハ不見

辞世　夜の明〳〵花ゑしひ〳〵や浄土門

季吟

北村氏通称久助蘆菴ト号ス又拾穂軒湖月齋七松子ト号ス父宗龍(連哥香道ヲ能シ医ヲ以テ業トス江州北邑ノ人ナリ)初ハ京師山伏町ニ住シ後新玉津嶋社中ニ居ス晩年台命ニ依テ東武ニ参仕シ法印ニ叙メ再昌院ト号ス

御テ歌学所トス弱冠ヨリ國史歌集ヲ熟覧シワキテ源語ニ
會通シ著ス所湖月鈔註解精密ニシテ後世亀鑑トナル

家書　御傘大全　寫本ニテ十巻　山乃井
増山の井　續山の井　師走の月夜　花千句
螽集　埋木　同増補　新續犬筑波
十會集　哥仙發句　二十會集　續連珠
三物記　誹諧合　室咲百韻　万葉集鈔
八代集鈔　土佐日記抄　伊勢物語鈔　大和物語鈔
湖月鈔　春曙鈔　百人一首抄　徒然草鈔

宝永二年乙酉六月十五日没行年八十二（イ六）池ノ端七軒町正慶寺葬

梅盛

高瀬氏俗称太郎兵衛薙髪シテ宗入居士ト号ス又佗心子ト称ス
二條油小路ノ人ナリ一時檀林世ニ横行スト雖師風ヲ改メスシテ門人ニ示ス

家書　口真似草　鸚鵡集　捨子集
山下水　七十二物争　使舟集　類舟集
古うぐ凡　木玉集　さゞれいし　落穂集
道連集　等アリ元禄十二年己卯四月八日没行年八十九

徳元

懐子集ニ上五文字ヨりぬまでハトアリテ休甫カ句トセリ考ヘシ

未得

玄札

安静

○立圃ヨリ梅盛マテ貞門ノ七俳仙トス

齋藤氏通名齋宮濃州岐阜ノ人織田秀信ニ仕フ後薙髪シテ徳元ト号ス又帆亭ト称ス江戸馬喰町二丁目ニ住（或云江戸丁氏）寛永十八年或人ノ需ニヨリテ 初学抄 ヲ編スコレ江戸ニオイテ俳書ヲ刻スルノ始ナリ晩年若狭ニ於テ没行年詳ナラス法名齋入ト云

辞世　今まではいきたをゝり成月夜かな

石田氏通称又左衛門乾堂ト号ス江戸ノ人ナリ故アリテ相州ニ隠ル再江戸神田鍋町ニ住シテ未得ト改ム後京ニ上テ令徳ニ親シミ貞徳翁ノ門人トナル誹諧ノミナラス狂歌モヨクス慶安中 吾吟我集 ヲ著シテヨリ芳名高シト寛文九年己酉七月十八日没ス行年八十有余
浅草誓願寺ニ墓アリ　牌面曰自性院未得居士

高嶋氏通名詳ナラス江戸本町四丁目ニ住シテ 醫ヲ業トス 一年上京シテ門人トナル没年未考明暦二年 十種千句 二巻アリ

荻野氏似空ト号ス又似空軒トモ云　貞徳翁ノ末弟ナリ　家書
介不延細布　鄙諺集　如意宝珠　等アリ
延宝四年没行年不詳（延宝四年ノ 続連珠 アリ） 家譜 ニ貞享二年乙巳

休甫

二月十九日没行年八十トアレトモ誤リナリ

津田氏本姓ハ喜田氏江齋ト号ス大阪生玉ニ住ス俳腸オノツカラ一風アリテ

堺ノ弘永蕉門徒然坊ト伯仲ス平日物ニ拘ラザルノ一奇人ニテ人モトム

レハ俳句ノ下ニ休甫居士キト戯ニ書シトソ明暦ノ頃カ六十三ニシテ没ス

辞世　我命とても七九の鐘木杖金ハかりても南無阿弥陀佛

承應元年立圃選メル［万句集］ニ樽屋休甫ト云人アリ別人ナリ思

ヒ惑ヘカラス尚此叟行状等ハ［東膚子］ニモ見エタリ

日能

越前敦賀本勝寺ノ住職ナリハヤクヨリ翁ノ教ヲ受テ秀吟尤多シ

寛永六年霜月下旬京妙満寺百韻法式ノ開莚ニモ連座セリ

實ニ七俳仙ト雖上ニタヽン了難シ没年詳ナラス

正式

池田氏通称重郎左エ門大和國郡山城主本多内記政勝ニ仕フ初ハ貞室

ニ随ヒ後直弟トナル狂歌ヲヨクシテ名ヲ古田造平（アフタツクリヘクリ）郡實（ケチガキ）ト称ス寛永

ノ頃重頼毛吹草ヲ選スル時此叟ノ句ヲ巻頭ニ置ントヤクシナガラ

我徒ノ春可［俳諧奇人談ニ浪花春顒ト誤ル］句ニカヘタリ式叟ソノ誓ヒノ変ゼシヲ憤リテ毛吹草

ノ批言［氷山］［同書ニ氷室守ニテヤマル］トイヘル書ヲ著スコヽニオイテ両人ノ間大ニ相水火

セリトソ没年詳ナラズ　寛文七年ノ印本［京童跡追］ニ「日蔭者と

道節

なり侍りて」ト前書シテ「行てみ召とやせ面ろ小老乃春

トイフ吟アレハ寛文中ニモヤアランカ

未吉氏通称詳ナラス父増重通称太郎兵衛貞翁ノ門人ナリ　摂州平野ノ人也

寛永中徒然草成親僧都ノ事ニヨリ「ミとし行しハ雪女のや

白うるりトイヘル秀吟ヲ吐テヨリ人稱シテ白（シロ）歯流（レ）里ノ

道節ト云又西武ノ筆ヲ執リシ［鷹筑波集］ハ節子ノ骨折

ヨリ成就スル所ナリ承應三年没スト

宗恵

内海氏通称長左エ門名久重六字堂ト号ス京師ノ人ナリ

誹学頗高シ曽テ居所梅盛ト近キカ故寸隙アレハ相

共ニ誹事ヲ談スト家書　［松葉集］アリ

定重

端氏通称ハ長兵衛風船子ト号ス京師ノ人ナリ秀逸ノ詠

吟尤多シ就中寛永ノ頃「山の口おかきる月の餅ゟし」ト云

句ヲ吐テ貞翁ノ高点ヲ得タル事アリ其時（ソノカミ）ノ句調思ヤルベシ

成安

泉州堺北ノ庄正法寺ノ住職法名詳ナラス泉國ノ魁首タリ

初ハ慶友ヲ師トシ後貞翁ニ教ヲ授ッ家書［うしろ乃草］アリ

没年詳ナラズ寛文ノ［後撰夷曲集］ニ「親もみしみとも

是誰　友閑　素休　定時

金もなしかゝぶ斗りハかゝりちひゐり」ト云世ヲ辞スルノ詠アリ
○以上親重ヨリ成安ニ至ル十八人ニ守武。宗鑑。光廣卿。○法印玄旨。無戴。法橋由己。貞徳。愚道。慶友。春可。利清。嘉隆。望一。弘永。幸和。昌意。空存。宗因。十八人ヲマジヘテ誹仙三十六人トスト萬治三年梅盛門子野田本春ノ冊子ニアリ

池田氏通称詳ナラス落葉堂秋風子ト号ス播州姫路ノ人ナリ一年上京シテ青地可頼。住田正信ノスヽメニヨリテ貞室ノ門人トナリ聖廟獨吟百韻ヲ連ス後翁ノ直弟トナル
家書　破罟魔　初元結　播磨姫路
玉くしげ　呂玖呂　等アリ

京師要法寺住職
法名日躰上人或書ニ云日禮

京師妙満寺中成就院ノ
住職法名日如

太田氏通称多兵衛紀州若山ノ人ナリ
家書　塵嚢集　四巻アリ

可理　定之　可頼　宗明　加友　守榮　氣求

大橋氏通称新之丞
加州金澤ノ人ナリ

南部氏通称清右エ門

[redacted]

青地氏通称市郎左エ門京師ノ
人ナリ貞室ト親ム事深シ

板原氏通称三郎兵衛紀州若山ノ人ナリ犬子集ヨリ秀吟
多クイレリ没年詳ナラス寛文ノ古今夷曲集ニ辞世「ほつくをと
死るハ脇よりハとつけてゆとをいふひとなしてあられ」ト云々

伊勢松坂樹教寺中法樹院住職般舟菴又春陽軒ト号ス
初ハ望一門人タリ後貞翁門子トナル晩年同國山田ニ轉住ス
家書　伊勢をどりアリ

京師五條寺町養泉寺ノ
住職

大和田氏通称又三郎名氏満弱冠ヨリ廣ク和漢ノ書ニワタリ殊ニ字義ニ委シク著述數編アリコヽニ畧ス誹道ノ書曰ハ

継立集三巻アリ没年不詳或ハ云貞翁没後西武ニ随トモ

貞利

藤谷氏通称甚三郎怐節ト号ス
京師ノ人ナリ貞兼ノ兄

一雪

椋梨氏通称三郎兵衛牛露軒又柳風菴ト号ス京師ノ
人ナリ江戸阿波處々ニ歴廻ス貞翁没シテ後西武梅盛等ニ
遺事ヲ傳フ　家書　雨あがり　行事板
晴小袖　糊おしろえ　鋸屑　茶抄竹
せんだくもの　ふくさゑの　言羽織　作者尽
等アリ没年詳ナラズ家譜ニ曰延宝八年庚申九月二日
没ス行年六十トアレモ不審アリイカントナレハ元禄九年刻
セシ本朝武士鑑ト云ル冊子アリコハ舊作ヲ後ニ印行セシ物カト
思ヘト序ノ文ニ武道傳来記ノ事アレハサニモアラス尚ヨク考ヘシ

友仙

有馬氏通称意菴号壽白江州坂本ノ人ナリ
医ヲ以テ業トス紅梅千句發起ノ人没年詳ナラス

卜養

半井氏泉州堺ノ人ナリ父ハ温野慶友（牡丹花肖柏ノ男 連哥誹諧ヲヨクス）弱冠
ヨリ和漢ノ書ニ眼ヲサラシ連誹ノ二道ヲアキラム又狂歌ヲ
ヨクシ自詠スル処ノ歌ニ巻アリ号シテ卜養狂歌集トイフ家
業ハ医道ナリ是又衆ニ秀ス晩年台命ヲ蒙リ幕府ニ給
仕ス延宝六年没ス行年詳ナラス或書ニ一号ヲ玄也トアリ
或ハ又父慶友ト号トモ云　是非ヲシラス

泰圓

京師寂光寺中圓光院ノ住職
師翁没後貞室季吟ニ属ス

貞兼

藤谷氏通称甚吉名貞好仰雲軒ト号ス又自ラ桂翁（カツラオキナ）ト
云京師ノ人ナリ或云兼叟ハ令徳ノ門人ナリ貞ノ字ヲ犯スヘ
ヲ訶ル是ニオイテ令徳請フテ以テ師翁ニ見ヘ使テ直弟トス
元禄十四年辛巳十月廿七日没　行年八十七
辞世　月ハ弥陀ゐさりや二十日来迎

正頼

東海氏通称茂右エ門
京師ノ人ナリ

松堅

宮川氏通称宇兵衛名正行後正由ト改又松亭子松亭軒
トモ号ス薙髪シテ松堅ト号シ道柯居士ト云菴アリ柳
園ト名ク大佛殿ノ南ニ在リ蓋シ是師翁與立ノ遺跡ニテノ

静壽　胤及　一村　元知　宗畔

堅叟没後門人コレヲ傳フ　家書　誹諧良材
あはを千句　和漢千句　歌仙自註　等アリ
享保十一年丙午二月廿三日没行年九十六
辞世　かり置し地水火風も今日返り行ところハ行ところもなし

川崎氏通称源太

摂州大坂ノ人ナリ

岡本氏通称仁意医ヲ以テ業トス備前ノ人ナリ後季吟
ノ門人トナル家書　鉋屑　角柱　千句
等アリ肩入奉公返荅［大長刀］ニ延宝四年没ストアリ

平澤氏通称古筆勘兵衛薙髪シテ了任ト号ス法名無二了
佐男ナリ［今出川新町］ニ住ス書ヲ能シ立甫［發句帳］四巻ヲ学
ニ筆ヲ執シム慶安三年庚寅十月廿八日没ス行年詳ナラス

西田氏通称三郎兵衛京師ノ人ナリ
家書　拾玉集　アリ没年不詳

馬渕氏通称詳ナラス名童治京師ノ人ナリ性稟閑雅ニシ
テ言語スクナシヨリテ武陵ヘ居ヲ移ストイヘド用ヒラレズ

保友　不存　友次　ノ身

承應四年中風オコリテ没スト云

梶山氏幼名ハ多吉後吉左エ門ト改ム薙髪シテ宗吾居士ト号ス
海嶽菴無心子ト称ス摂州大坂鍋町ニ住ス人ト成淳朴ニシテ
諸賢子ト争事ナシ朝暮誹句ヲ吟スルヨリ外ノ業ナシ是ニヨリ
テ此叟ノ詠吟撰集ニ入ラサルハ甚モツテ稀ナリ　家書
古今誹諧百句集　獨吟千句　大硯集　根なし草
没年詳ナラス案ニ元禄ノ末カ

清水氏通称孫三郎薙髪シテ春流ト号ス尾州名越人也
［崑山集］ニ名越トアルハ名古屋ノ誤カ　後浪華ニ移居ス尾陽ノ魁首タリ一号吸月堂ト云
家書　尾陽句帳　徒然草新註　續つれ〳〵
等アリ没年詳ナラス案ニ貞享ノ頃カ

吉田氏通称六左エ門一醒ト号ス或ハ一水又無能子ト称ス尾州名
古屋ノ人ナリ　家書　薮香物　和漢両吟
阿波手集　八百韻　等アリ没年詳ナラス

池田氏通称又三郎尾州名越ノ人ナリ没年詳ナラス○
不存。友次。ノ身。ヲ尾陽三哲トス

燕石 政公 道甘 之次 正哲 顕成 正平

冨永氏通称治右エ門土佐國ノ人ナリ或書ニ浪花ノ人トス
誤ナリ安井燕石トテ別人ナリ 家書 牛飼集アリ
五十嵐氏通称忠右エ門
京師ノ人 没年不詳
高瀬氏通称弥三右エ門名正代薙髪シテ道甘或道鑑ト号ス梅
盛カ弟ナリ城南伏見ニ住ス桑々菴ト号ス 家書 絲瓜草
花の露 人真似 是ゟこて草 等アリ
或書ニ云立甫門人ト 元禄四年辛未二月十五日没行年八十二
伊勢村氏通称九兵衛薙髪シテ意朔ト号ス招鳩斎ト称ス大
坂ノ堀ノ住 翁没後季吟ニ属ス
足立氏名元信
京師ノ人ナリ
山井氏通称林菴名定宣阿知子ト称ス泉州堺南ノ庄ノ人ナ
リ医ヲ以テ業トス家書 境界集 同後集 手くり舟
黒田氏通称源左エ門
南紀若山ノ人没年不詳

正盛 浄久 重春 良保 蝉吟 三信（イ忠） 加友

今西氏通称呉ニ兵衛大和國今井邑ノ人ナリ
家書 耳なし草
三田氏通称不詳 河内國柏原ノ人
家書 河内名所記アリ
野田氏通称弥兵衛宗二ト号ス京師二條寺町ニ住シテ
物ノ本ヲ鬻クヲ業トス
片桐氏通称清右エ門三夢ト号ス又乙元子ト称ス京師ノ人始メ
令徳ニ随ヒ後貞門トナル 家書 独歩集
千句 辨説集 風俗集 なそむれ草
破枕集 等アリ 没年詳ナラス
藤堂氏通称新七郎名良忠 藤堂侯ノ臣
師翁没シテ後季吟ニ属ス
竹内氏通称市左エ門或ハ吉左エ門トモ一葉子ト号ス
勢州松坂ノ人師翁没後季吟ニ属ス
荒木氏通名棄菴江戸ノ人ナリ
家書 繪そらおとし アリ

一入
石倉氏通称三郎兵衛容膝軒ト号ス紀州熊野長嶋ノ人ナリ

玄賀
小谷氏俗称甚太郎名久恵薙髪シテ玄賀ト号ス又自立静子ト称ス京師ノ人ナリ家書 四季の友 道つれ 等アリ

重勝
筒井氏通称井筒屋庄兵衛京師二條寺町ニ住ス

貞晨
俳道ノ冊子鬻ヲ業トス

貫風
中嶋氏通称内蔵之丞初名貞義又改貞宣ト云京師ノ人ナリ近世刻行スル冊子ニ蝶々子貞宣同人トセリ今鸚鵡集ヲ以テ改ム

以重
加藤氏通称詳ナラス空門子ト称ス京師ノ人ナリ貞室ト親ミ深ク重頼撰集ノ批言歩行神ト云ル書三巻ヲ編ス或曰名勝明トモ

氏重
渋谷氏紀伊守京師ノ人父ヲ浄安ト云
連誹ヲ能シテ貞翁友タリ

一正
渡邊氏通称吉兵衛
京師ノ人没年詳ナラス
柏井氏通称多左衛門
泉州堺ノ人没年不詳

屋勝
津田氏通称二郎兵衛
後道意ト改ム摂州池田ノ人

毎延子
橋本氏通称善四郎
尾州熱田ノ人没年不詳

如貞
大津氏通称勘兵衛
名ハ良弘摂州大坂ノ人

種政
佐枝氏通称傳兵衛幽泊子ト号ス尾州名古屋ノ人ナリ

盛庸
藤木氏通称七郎右衛門薙髪シテ了因ト号ス或呑舟軒箕山子ト称ス摂州大坂ノ人京師ニ住ス平澤了佐門弟ナリ古筆鑒定ニ達ス 家書 顕傳明名録 好色大鑑 等アリ没年不詳或人ノ云元禄年間七十有余ニシテ没法名古室了因居士ト云ク

貞祇
伊藤氏通称八十郎
伊勢桑名ノ人ナリ

安明
渋谷氏通称新四郎貞門ノ老弟ナリ
大坂ニ住ス男ヲ長藏ト云是又俳諧ヲヨクス

言當
罡村氏通名淀屋某ト云薙髪メケ菴ト称ス
茶道ヲ善ス浪花ノ豪福ナリ

正直
鈴木氏俗称平野屋重兵衛
京師ノ人

一景
松平隠岐守名定行祝髪シテ直昌ト号ス
本姓菅氏幼名十太夫伊豫ノ松山ノ城主

元正
柴田氏通称半左衛門初メ名如心京師ノ人
後季吟ニ属ス　家書　天神奉納集　アリ

臨淵
加藤氏名等空冬木翁ト号ス又磐斎ト称ス摂州ノ人ナリ
京師ニ住ス師木嶋ノ道ヲ翁ニ学ヒ傍ニ俳諧ヲ善ス歌道ニ
名アルヿハ普ク通ストイヘトモ俳諧ヲヨクスルヿ知ル人マレナリ

満足
罡田豊前守名善政美濃ノ人或書ニ近衛殿　應山公ニ仕フト
云　歴代滑稽傳　ニ曰「罡田将監ハそのかみ名ある人なり美濃ノ國
の産一とせ近衛殿へ御見舞申されけるに「五月雨によくこそ
きたれ美濃の者とのたまひけれは「あれ江おのこを探をもつひ
と云脇をつけて申上られけりとそ」トミエタリ　没年詳ナラス

文明
影山氏或蔭山ニ作通称七郎左衛門大坂ノ人後休安ト改ム
浪花俳仙ノ一人タリ

久次
田中氏通称伊大夫淡路侯ノ侍臣
家書　ませ鏡　アリ

三保
堀江氏通称八郎右衛門京師ノ人　家書　音頭集アリ或ハ
伊勢松坂ノ住竹内三保選スル書トモ云イヅレカ是ナルヿヲ知ラズ

長吉
福岡氏通称加左利屋吉兵衛
京師ノ人

宗利
髙田氏通称吉兵衛京師芝之圖子ノ人或曰後薙髪シテ宗
賢ト改メ師木嶋ノ道ヲ専門トシ　伊勢物語秘訣抄　徒然草
大全　等ヲ著ストニ云々

玄康
栗田氏名字詳ナラス城南伏見ノ人荻野安静ト友トシ善シ
連俳ニ達シ都下ニ鳴ル○男ヲ玄賛ト云此道ヲヨクス

定次
小島氏通称爲三
丹後ノ人

○貞德翁ノ添削ヲコフテ風下ニ隨フ騷人其幾計ガタカリ爰ニ録スル八十有余人ハ就中貞門ノ博識タルヲ擶ム尤引用スルトコロ 百人一句 新百人一句 三十六俳仙 古今百句 手鑑 等ヲ以テ本據トス然レモ尚遺漏多カルベシ後人ノ補正ヲ俟

追考

貞室条ニ かしまだち 慶安三年印本 五之巻ニ曰

「うらハべよてそ」ハ貞室己ガヲサナカリシトキヲ云

「花開のちるよ」ハ貞徒翁ヲサス

「上畧下京のそこ〳〵み茶湯ヲ住ける翁ありけるが言の葉ハ蓑笠乃しとふ古襟緒よつきてたゞ根のあらつきがさま友あつめ仍らしはしこをもいしうわあれ侍りぱべるそゆかしをり親されぬせりしたまふも聞いまを次して雪あらし「とはりんノアヤマリカ」庭ヲ出つるられあそびしるよ花開のちるようしれ「芭蕉ハはなよろしせてしうみだ日ふ雪とのこゆハせしもまづきのふるみふの花ぞ仍ろ云云」トアレハ貞室弱年ヨリ翁ノ教ヲ受シ事論ナシ 滑稽傳 コレノミナラデ外ニモ謬トオボユル事マヽミエタリ

○貞德翁孫弟系

野々口立圃

○正壽 野々口氏 庄兵衛 ○親善 同苗 市左衛門 ○頼永 同苗 仁右衛門

二世 立圃

野々口氏通称詳ナラス立圃叟ノ孫ナリ正徳享保中ノ人○北邑立似撰 入聟集 及 形見草 ニ勝重ト云人アリ是立圃ノ男カ

幸和 （万治三十六俳仙ノ一人ナリ）

江崎氏俗称太右衛門ト云雛髪ニテ春學ト号ス又自一翁ト称ス四條通油小路ニ住シテ醫ヲ以テ業トス性質酒ヲ好ム一年文月十三日酒手ニツマリテ料銭ヲ濟サス酒店ノ下僕ニシバ〳〵来ル無為方シテ一首ヲ詠シテ僕ニワタス其歌ニ曰「五月雨や天のさうてふりつゞり雨のあしわどかゝわめいそく〳〵」トナン讀ミケルトゾ 寛文十二年印本瓢水子浅井了意作 狂歌咄 ニアリ已往ノ風流思ヒヤルヘシ

寛永年間 底抜臼千句ヲ著ス 没年詳ナラス

幸佐　幸忠　定清

高田氏通称治兵衛幽竹堂ト号ス御幸町三條下ル町ニ住ス
漢和ヲ能クス　家書　灯下集　入船　大湊
誹諧品定 写本ナリ 等アリ没年詳ナラス案スルニ宝永中歟
山森氏通称二郎兵衛
京師ノ人没年詳ナラス
服部氏通称喜三郎肉數堂ト号ス又鵬鶵子ト称ス京師ノ
人ナリ初ハ貞徳翁ノ批判ヲ受ケ後立圃ノ門弟トナル
家書　櫻千句　根なし草　尾蝿集　等アリ
没年詳ナラス案スルニ延宝中歟　百人一句一人ナリ

定武　由的

服部氏定清ノ男通称詳ナラス元禄四年當世百人一句ノ
一人ナリ家譜ニ曰定武父ハ号ス定清ト立圃門人ニテ著ス尾蝿集。
花軍。等ノ之書武者常矩門人元禄年中之点者也云云
トアリ予古書ヲ按スルニ常矩門人タル丁明證ナシ
宇都宮氏通名遯菴頑拙齋ト号ス又三近子ト称ス儒學ヲ
尺五堂松永昌三ニ受ケ著述スル所ノ書数訂アリ俳道ハ定武ヲ

重似　有静　流味　頼富　小哉　榮富

師トス防州岩国ノ人後京師高倉通椹木町ニト居シテ儒學ヲ
以テ業トス　家書　花見記　日本人物志等アリ
谷口氏通称十郎兵衛同和ト号ス又楽山子ト称ス後季吟ニ
属シ檀林ノ黨ニ交ル　家書　百人一句 寛文七年　新百人一句 寛文十一年印本
等アリ没年詳ナラス　家譜ニ貞徳翁直門トスルハ非ナリ
井狩氏通称二郎兵衛春夕子ト号ス京師ノ人ナリ中頃ハ季吟
ニ属シテ増山乃井ヲタスク後又檀林ノ黨高政ニ随ヒ屢雅筵ヲ
トモニス　没年未詳　新百人一句ノ人ナリ
井口氏通称新右衛門
京師ノ人
伊藤氏通称小左衛門
京師ノ人
矢木氏通称理兵衛李斎ト号ス
京師ノ人ナリ
速水氏通称市兵衛富竹ト号ス京師ノ住
没年不詳　以上四俳士百人一句一人ナリ

正隣

松木氏通称詳ナラス　○立叓直門弟トモ云
一榮子ト号ス東武ノ人　新百人一句ノ人

易延

平井氏通称八左衛門
京師ノ人

友貞（百人一句ノ一人ナリ）

井上氏通称重右衛門渉字子ト号ス京師ノ人　家書
唐人をとり　天神法楽集　神子まひ　花いくさ
等アリ没年詳ナラス　家譜　花軍ヲ定清トアレト非ナリ

友資

井上氏友貞男
通称詳ナラス

國信

三澤壹岐守殿
京師ノ人

長式

池田氏俗称詳ナラス京師ノ人　馬鹿集　作者　○同時ニ
池田常清ト云俳士アリ此人トハ別人欤

玄隆

後藤氏名字詳ナラス京師ノ人
家書　闇夜舟一巻アリ

常辰（百人一句ノ一人ナリ）

隼士氏通称長兵衛松風軒ト号ス又自徳翁ト称ス立叓ノ高
弟ナリ家書　慕啓集　柾木葛　木間ぎゞん　等
アリ貞享二年乙丑二月九日没行年詳ナラス

常長

隼士氏常辰男通称詳ナラズ京師ノ人　家譜ニ隼士氏ヲ村田氏ニ
誤リ辰ヲ長ト謬ル欤爰ニ記セル如ク常長ハ常辰ノ男ニシテ
北村立以ノ撰メル　入聟集　ノ時十三歳（此書ニ予蔵本年号ナシナリ又案スルニ寛文始欤）
家譜　ニ田中常矩ヲ載テ曰「常矩云〻不好師父ノ誹風ニ（春明云蕭常長ヲナス）
新作テ風流ヲ而鳴世或曰矩者常長之甥而長養為子云〻」トアリ
是常辰ヲ常長ニ謬リ其常長ヲ亦常矩ト混乱セシナルベシ
常矩ハ宗因ト雁行シテ一流ヲ起シ寛文ノ末ヨリ延宝天和
ニ及テ四海ニ鳴ルカヽレバ常長トシルセシ軒号没年等ハ常辰
カ傳ナルベシ尚　慕啓集（万治三年印本）　柾木葛（延宝四年印本）　等ヲ見
テモ時世ヲ知ラム予此士ノ傳ヲウルサキマデ癖論ヲタフルト
人アヤシムベケレド丈石　家譜　ニアヤマレルヲ後人改正セスシテ
近世刻スル所ノ　書画一覧　ヲヨヒ　書画便覧　書画集覧　等ニ載
スルニヨリテコヽニ及フ

常牧

繁田氏名ハ宗雅蘭化堂ト号ス又雲峰子ト称ス京師油小路魚棚ニ住ス　家書　木すな　冬こもり　きあるき　万歳楽　等アリ　没年詳ナラス　當世百人一句ノ一人ナリ予再案スルニ常牧ハ常辰門弟ナラテ常矩カ弟子歟延宝七年印行セシ田中常矩塵取集ニ秀吟多クイレリ

由卜

遠藤氏俗称詳ナラス名ハ元重室町今出川下ル町ニ住ス或曰始ハ常矩門人ニシテ矩叟没シテ常牧ニ属スト尚考ヘシ

和及

俗姓ハ三上氏（或高村氏トモ云）露吹菴直唱法師ト号ス洛西壬生村ニ隠栖ス水青ノ句アリ　家書　雀森　水くきのをか　藤波集　ひこばえ　等アリ　當世百人一句ノ一人
元禄五年壬申正月十八日寂　年四十四
辞世「我としも四十四のむ乃あけ句かな」

酉生

山口氏始鞭石門人優生ト号ス後故アリテ和及ニ世ヲ續ク露吹菴ト号ス又喜霍堂ト云優ヲ酉ニ改ム　寛保二年壬戌正月十五日没行年七十一
辞世「六の道らりくてにさて不安養界の月そみるかな」

文推

宇野氏群雀寮ト号ス　享保十六年辛亥七月九日没ス　行年五十有一　京師ノ人ナリ

長年（イ年）

姓氏詳ナラス拊拾子ト号ス　京師ノ人　没年詳ナラス

卜圃

関氏通称理右衛門名昌房京師ノ人立圃叟ノ老弟ナリ　家書　濱荻　小町をとり　塵塚集　等アリ没年詳ナラス　新百人一句一人ナリ

知徳

福井氏通称長右衛門初名ハ来徳ト号ス京師ノ人寛永十年ノ發句帳ヨリ始トシ秀吟多クイレリ実ニ立叟下葉ノ高オナルヘシ○幸和。定清。友貞。知徳。卜圃。常辰ノ六哲ヲ立叟門ノ六点者ト朝江種寛カ集冊ニミユ

種寛

朝江氏通称小左衛門名ハ忠榮梅遊軒一風子ト号ス京師ノ人　家書　詞友集　同續　誌心集　俳諧大概

形見草 等有リ 没年詳ナラス ○種寛カ兄ヲ種榮ト
号ス貞徳翁門下ニシテ小發句帳ヲアラハス或云舎弟トモ

貞之

谷崎氏谷遊軒ト号ス 家書 海士釣舟

道弘

京師ノ人

■氏南都ノ人

家書 赤紫

無文

山田氏備後鞆ノ人

家書 備後表

如谷

姓氏詳ナラス明道散人京師

如琴

津田氏京師ノ人

當百人一句ノ一人ナリ

由健

百人一句ノ一人ナリ

澤田氏通称三郎左衛門名ハ正成友雪ト号ス京師ノ人ナリ或曰幸和門弟トモ 家書 都草 若竹集 等アリ

没年詳ナラス 寛文十年印行セシ書籍目録ニ若竹集幸和著述トアリ予此書蔵ストイヘトモ一巻カケタレハ考ガタシ

井上氏通称次左衛門昌雲軒ト号ス 家書 鹿鷲集

春清

千句 等アリ又貞室季吟ニ善ミ深ク玉海集オヨビ新続犬築波集ニ秀吟多クイレリ 俳諧奇人談ニ井坂氏治郎左衛門又留雲軒トス予ハ承應元年印行セル誹諧

万句集ニ随フ又同書ニ承應四年没ストイヘトモ是モ又不審アリソノカントナレバ自撰ノ鹿鷲集ハ明暦三年ノ印行ナリ尚ヨク考ベシ 百人一句一人ナリ

忠知

神野氏通称長左衛門東武ノ人ナリ此士古風中ニアリテ出藍ノ誉下リ一年「白炭や扇らぬむかしの雪の枝」トイヘル秀吟ヲ吐テヨリ人称シテ白炭ノ忠知ト云 白炭ノ句ハ寛文四年松江重頼カ撰メル中山集只ノ部五十六丁ニ出タリ 其角カ雑談集上巻三十六丁オモテヨリ「上略されは白炭ときあえし忠知ゟ「霜月やあるはあきさ身の新法師と捧せられて後きかけるいろよせなかたる浮世ハ数ならん哀之ゟの彼本をさん忠知ゟ子やとひへてき人し帰にてえうはしそり五十年来れ正風をまれるその胸之「えりやかふさとへん朝ほらけ忠知「双六な世のさいあんやおふ同都ゟさちど中もうと思しき誹句なる世のハのよたとなんと思ひ宣よし元禄の境未斗不記之云々」トアレハ卒ヲヨクセサリシニヤ尚白炭ノ句ニハ先哲ノ異論モアレトコヽニイハス

皆虚
土佐ノ國圓満寺ノ住職角茄軒ト号ス 家書「世話焼草」
「四名集」等アリ没年詳ナラス案スルニ延宝ノ末ツコロ歟

土牛
京師本正寺住職法名日逞

定親
「新百人一句」ノ一人ナリ漢和ヲ能ス
林氏通称勘右衛門名ハ久勝

長女 定親妹

定用
器水子ト号ス浪花ノ人ナリ
松岡氏名字詳ナラス

好女 定用妻ナリ通名ハ於好女六俳仙ノ一人

清長
東武ノ人
森氏通称小左衛門遠州掛川ノ人家書「志のふ草」
アリ 没年詳ナラス「新百人一句」ノ一人ナリ

成次
飯田氏通称又左衛門
初名ハ家次京師ノ人ナリ

正春
由良氏通称八郎左衛門江戸ノ人ナリ歌道ニ達シ連俳ヲ善ス
寛文中九十歳ヲマタスシテ没ス ○元禄三年 其角カ
印行セシ「花摘集」四月廿日ノ条ニ此叟ノ辞世ヲ載タリ左ニ如シ
辞世「友小も花ハ昨日今日の風

又同人ノ文集「類柑子」上巻曰「由良正春といへる人歌連俳にほこりきてや生涯の癖として才まさる病として終に世の人に法しおもひしみてかはりけり寛文年中九十の賀せばして身ゆかり終ひぬるや氏性ハ浮田家の外戚といひ伝へより住不ハもとよりさだかける業なりそ新ハ薬うる家にむへり門ハ鮑魚のいきれたる鼻をおほふあたりにして下司女なども少なくよみつゝ歌しきうちにかひてけうがる交りありき」トアリ

東順
竹下氏通名ハ赤子ト号ス江州堅田ノ人医ヲ以テ其侯
ニ仕ヘ辞シテ後隠者トナリ江戸ニ移リ住ス 元禄六年
八月廿九日没行年七十二 二本榎上行寺ニ葬ル晋子ノ父
辻村氏通称勘右衛門初名ハ長運薙髪シテ[redacted]ト号

宗順
京師ノ人
池田氏通称九郎左衛門名ハ常久

常知
京師ノ人

立志

高井氏俗称詳ナラス松樂軒ト号ス江戸本町四丁目ニ住ス 家書 橒木集 思出千句 等アリ没年詳ナラス案スルニ延宝天和ノ頃歟

二世 立宣
立志

高井氏立志長子初名立儀ト云松雨軒窻梅子ト号ス 家書 女夫草 櫻〻〻 等アリ没年未詳

高井氏立志次男名吉章幼名犬松初松雨軒立詠ト号シ後薙髪シテ和階堂ト号シ父ノ表德ヲ續 家書 都の枝折 浪巻の枝折 等アリ 宝永元年甲申八月[redacted]没行年四十八[redacted]葬ル法名ヲ高林院立志日乘ト号ス

三世 立志

高井氏二世立志男心保和散才初春水又立詠 家書 雪のもて 庭のまさき 厥中 等アリ 享保九年甲辰十一月廿一日没浅草常福寺ニ葬ル行年詳ナラス

四世 立志

浅見氏通名詳ナラス初名如格ト号シテ仌我門人後三世立志ノ後ヲ續テ和樂園ト号シ一ト改ム二世立志点印和散才立志ヨリ附属ス飯田町坂ニ住ス没年未考

立和

三世立志門人姓氏詳ナラス兎睡堂ト号

○立路 高井氏三世立志男歟 而形集ニ出タリ

水國

雲津氏鶴隣ト号ス始ノ名ハ晴星又立舞橘町ニ住ス享保年中若年ニテ没ス肖像ハ享保十九年印本岡田青壚著ス たつのうら ニ出タリ ○門人ニ梅國トス人アリ

小野川撿校糸耕軒ト号ス 江戸銀町二丁目ニ住

立吟

家書 餞別五百韻アリ

信親

森氏通称七郎兵衛東武ノ人 家書 信親独吟千句アリ

重親

西村氏通称善右衛門薙髪シテ可玖ト号ス又若竹軒長愛子ト称ス浪巻大手筋ニ住ス 家書 遠近集 たつき集 湊舟十万句 等アリ又元禄三年 物見車 トイヘル闘書五巻ヲ著述シテ別㳒黨ヲ難判ス因テ西翟

古根
團水輩トモカラ怒テ石車　おとひ牛等ノ冊子作ル没年不詳
飛田氏通称伊右衛門後賀近ト改ム京師ノ人ナリ
家書　詞の友一巻アリ　新百人一句ノ一個

重軌
大津住鉄鉋鍛冶国友
家書　嗚呼立千句アリ

定門（イ英）
平澤氏了佐男幼名源六郎又三郎右衛門薙髪シテ了
榮ト号ス目利第二世トス延宝六年午十月八日没行年
七十歳法名即心菴直截了榮居士

定香
平澤氏定門男通称八郎兵衛（イ平兵衛）薙髪シテ了祐ト号ス
又香歳子ト称ス目利第三世トス貞享元年甲子四月
廿日江府ニテ没行年四十（イ三十七）歳法名即性菴直空了祐
居士

重光
平澤氏了佐男通称次左衛門薙髪シテ了雪古筆
賞鑒ヲ以テ業トス　延宝三年乙卯閏四月十四日没
行年六十四歳法名無心菴古雲道樸居士西王禪寺葬ル

立似　新百人一句ノ一人ナリ
喜多村氏通称休斎名宗清大坂備後町ニ住ス初ハ令徳
貞室ニ従ヒ後立圃叟ノ門弟トナル　家書　入蛍集
烏帽子箱　等アリ没年詳ナラス案スルニ元禄中歟

秋月
片山氏通称清右衛門

廣得
名正朝浪花ノ人

友直
藤井氏通称鉄屋與一郎トモ云
備後ノ國ノ人没年詳ナラス

方孝
川崎氏通称源左衛門薙髪ノ宗立ト号ス浪花ノ人始貞翁ニ
隨ヒ後立圃ニ属ス　家書　独吟集アリ　同門同名ノ
俳士アリ中村氏通名内藏丞ト云　正親町家ノ臣トイヘリ
川崎氏浪花ノ人書風
立圃叟ト伯中ス

方女
方孝妻ナリ才智衆人ニ秀テ女六俳
仙ノ一人ナリ立圃方

和年
半井氏通称長兵衛名ハ
松宜京師ノ人没年不詳
孝ノ三吟ノ百韻筑子

立和
境氏通称善五郎
名ハ滿直江戸人
千句ニアリ

元定
馬越氏通称重郎右衛門
備中東卿原邑ノ人ナリ

長女
元定妻

鷺水
青木氏通称詳ナラス歌仙堂ト号又白梅園三省軒ノ数号アリ
弱冠ヨリ才智無人ニ秀テ殊ニ俗戯キヨクノ文詞ニ妙ヲ得テ著
ス所ノ冊子井ノ西鶴ニモ劣ラス　家書
誹諧指南　誹諧良材　糸屑増補　誹諧新式
万葉仮名遣　春のことぶれ　つるく草集説　万歳楽付合　故事要言
等アリ没スル年詳ナラス［家譜］ニ享保十八年癸巳三月
廿六日没行年七十六トアレ氏オホツカナシ

乗言
尾関氏通称長右衛門
江戸ノ人

為宣
喜田氏初名為親
京師ノ人

立歟
吉田氏
浪花人

親十
櫻井氏名ハ正友
浪花人

吉叅
酒井氏通称甚右衛門
京師人

照星
荻原氏
京師人

山石
肥後八代宗雲寺ノ
住職漢和善ス

来安
岩井氏通称源助
京師ノ人

常倫
東氏名家重
京師ノ人

嶺利
竹井氏通称勘右衛門
江戸ノ人

有次
岩田氏通称二郎兵衛
薙髪シテ有我 江戸ノ人

知詮
浪花徳成寺住職
法名詳ナラス

宗利
北村氏通称市左衛門
江戸ノ人

紅圃
寒川氏
江戸ノ人

仲昔
中野氏久右衛門
京師ノ人

信世
小野氏
江戸ノ人

是雲
朝山氏
浪花人

通親
森氏
同

叅重
喜多氏
大坂ノ人

謍文
富田氏通称助之進
江戸ノ人

好與
木村氏
京師人

痴白
法橋
美濃人

屑子
庵原氏通称千藏江州彦根ノ人【百人一句】ノ人

見袖
庵原氏通称久左衛門
名朝則彦根ノ人

定圃
稲熊氏通称七右衛門
浪花ノ人

吉隆
久保寺氏通称源左衛門
東武ノ人

宗富
蜂屋氏
京師ノ人

宗雅
伊藤氏通称三右衛門
京師ノ人

富平
紫谷氏
大坂人

圓立
今井氏了三京師人或曰
小川氏 家書【花火草綱目】

○

同水
西洞院 権大納言時成卿
享保七年薨八十

一止
正親町 権大納言従一位公通卿白玉翁トモ号シ風水軒ト称ス
享保十八年薨八十一 御選【雅延酔狂集】

曲
七條院 正参議隆豊卿
貞享三年薨四十七

∴松江重頼
○迎吉 松江氏浪花ノ人書ヲヨクス維舟叟ト伯中

弘永
姓氏詳ナラス夕陽菴ト号ス泉州堺ノ人後天王寺邑ニト居シテ導ト改ム晩年師風ヲ変シテ異躰ヲ吟ス或曰弘永ハ重頼カ門葉ナラス友ナリトモ云 家書【獨吟集】
アリ没年詳ナラス案ズルニ寛文ノ末歟

春可
姓氏詳ナラス朝生軒又纎毫斎ト号ス重頼高弟ニシテ鷺ノ句ヲ吟シテ【毛吹草】ノ巻頭ニ出ス寛永年中世ヲ早ウセシニヨリテ知ル人スクナシ或書ニ俗称扉野文八トアリ考ベシ

昌意
北岩倉ノ来門後壬生村ニ居ヲ移シテ唯梅ト改ム或云重頼門弟ナラス友ナリトモ云 没年詳ナラス
○以上三十六萬治二年野田本春ノ【三十六歌仙】ノ内也

重榮
竹山氏俗称詳ナラス燕遊軒ト号ス竹山定通称善三郎従弟ト云京師ノ人也家書【短綆集】 【哥仙發句】 等アリ○
【綾錦】二六立圃門人トス又【家譜】青木春澄ノ系ニ曰「曽テ聞ツ

重方

此士當世百人一句ノ一人ニメ重方。重貞ト云キヲ同ジウセシ人ニアラズ

重頼之徒有重榮。重方。重好。重貞。等称四重為門弟之長ニミヽトアリ予古集ヲ参考スルニ重頼カ徒タル支證ナシ又 あやふしき ニ立吏門弟ト定ムルモ擾アリヤ

重貞

望月氏通称八右衛門紹佐ト号ス初貞徳ノ批判ウケ後重頼ノ門下トナル復籔内ノ門人トナリ茶支ヲ善ス

重好

望月氏通称庄兵衛重方従弟ト云京師ノ人両士トモ没スル年詳ナラス寛文ノ頃五十有餘タル丁古集ミエタリ

[redacted]

重山

櫻井氏通称詳ナラス櫻井軒ト号ス勢州久居藤堂侯ノ家士本太六伊賀上野ノ人ナリ 寛文年間 嚏草 くるゝ 泊傘 ノ三部ヲ合シテ一書ヲツヅル號ヅケテ公界集ト云

重供

望月氏通称藤兵衛 初ハ貞翁ニ従ヒ後重頼ノ門下ニ帰ス望月重貞兄ト云

重種

福井氏通称新右衛門 京師ノ人 没年詳ナラス

重昌

福井氏通称七右衛門重種従弟京師ノ人○以上永。可。意。方。貞。山。供。種。昌ノ九人前後百人一句ニ入ナリ

千之

大原氏後望月氏ト改通称詳ナラス露分軒近隣子ト号ス京師ノ人後宗因カ檀林風ヲ吟ス。女ヲ子盈ト号シ誹諧ヲ善ス

千春

大原氏千之従弟通称彦四郎高倉二條上ル町ニ住ス千之ト倶ニ専檀林風ヲ吟シ後復正風体ニ帰ル 武蔵曲 家書 假舞臺 等アリ没年詳ナラス○或曰両士モ江戸ノ人ナリ北村季吟門人ト云是非ヲシラス尚ヨク考ベシ○復曰千春カ妻ヲ綾戸ト号ス誹句ヲヨクス

行風

浪花高津ノ隠僧生白菴ト号ス又懐中ト称ス狂哥ヲ善ス門弟スコブル多シ 家書 古今夷曲集 後撰夷曲集 等アリ 没年詳ナラス 大坂俳哥仙 延宝元年印本 ノ一人ナリ

徳懐

嵯山氏通称詳ナラス名ハ重政ト云浪花ノ人或人曰徳懐ハ檀林ノ俳士管野谷高政カ初名ナラントイヘリ考ヘシ

重長

松江氏通名順菴字玄丹宗眠ト号ス医ヲ以テ業トス京師ノ人安スルニ重頼親族ナルヘシ

宗隆

中井氏通称勘右衛門家名ヲ笹屋ト称ス京師ノ人没年未詳 新百人一句ノ一人

鬼貫

或人ノ云鬼貫ノ二字タ高貴ノ御方キコシメサレテ句ハイト風流タルニナトテカクオソロシキ名ヤツケ、レトエマセタマヒヌトキハサトニテ仏兄ト改タリトイヘリ

上嶋氏通称惣兵衛名ハ治房槿花翁ト称ス晩年囉々哩居士即翁ト号ス維舟門弟ニシテ宗因カ檀林ヲ吟シ一風ヲ起シテ世ニ鳴ル伊舟風ト云 家書 犬居士 大悟物ぐるひ 惠のたうら 西瓜三ツ ひとりごと 七車集 句選 独吟百韵 有馬日書 等アリ元文三年戊午閏八月没行年七十八 伊丹墨染寺ニ葬ル牌面ニ曰 仙林則翁居士

言水

池西氏通称八郎兵衛名則好紫藤軒風下堂ト号ス南都人始江戸ニ出テ檀林ノ黨ニ交リ後京師ニ登リ室町椹木町ニト居スヒト、セ木枯ノ句ヲ吐テヨリ英名四海ニ東ク 木枯のはて八有りけりうみのおと 晩年ニ及テ自ラ洛下童ト称ス家書 新道 江戸辨慶 蛇乃すし 東日記 以上江戸ニテ撰ナリ 後様姿 都曲集 京日記 京拾遺 毛登我志波 等アリ 享保四年 或七己亥九月廿四日没行年 七十有三

言石

門人墓ヲ京極誠心院中和泉式部カ塔ノ傍ニ築ク

下村氏紫藤軒ト号ス始鞭石ノ門人ニテ優士ト号ス後言水ニ属シテ言石ト改ム

金毛

芳澤氏言水没メ後方山ニ属メ方設ト号ス後再金毛ト改ム又芳充翁ト称ス 家書 海音集 アリ 延享三年丙寅十一月廿六日没行年八十

児水

瀬山氏芳樹軒ト号ス京師ノ人 家書 ひとち帯 一巻アリ

我黒

中尾氏李洞軒ト号ス青白翁ト称ス晩年自舟叟翁ト改ム 家書 橋立記行 アリ 和及法師ト友トシ善シ宝永七年庚寅十月六日没行年七十有一

幽山

高野氏俗称ハ孫兵衛名ハ直重丁々軒ト号ス江戸本町川岸ニ住ス元禄ノ頃藤堂 任口君ニ仕テ竹内爲入ト改ム 家書 江戸八百韵 俳枕 歌林名所追考 等アリ 没年詳ナラス 或書ニ宝永年間勢陽久居ニ於テ没スト云

一三　姓氏詳ナラス半孤軒泉印子ト号ス讃州人

宗甫　林氏大和郡山ノ人自筆ノ短冊「古今短冊集」ニ出タリ　右手鑑ハ宝暦元年ノ印本大夢菴午越作

貞盛　駒井氏泉州堺ノ人或曰玉手貞直称九郎左エ門近古地下歌道六哲ノ門人ナリトモ

正春　神田氏京師ノ人　家書　かつら川

好道　尼島氏通称四郎兵衛摂州大坂ノ人寛文ノ初ツヨリ没ス或云貞翁直弟

道清　坂口氏林松軒發句翁ト号ス京師ノ人後浪花ニ移ル家書　二見ぞこ

好永　日永氏通称吉十郎可敬ト号ス江戸ノ人古筆鑑定ヲヨクス或曰貞翁門人

夏夕　山中氏京師ノ人

長治　川島氏通称弥右エ門薙髪シテ瑞運ト更ム泉州堺ノ人始ハ貞翁ニ随ヒ後重頼ニ属ス家書　夢見草　アリ寛文年間没

空存　江北天満川崎街川崎坊ノ住僧行年詳ナラス「後撰夷曲集」ニ名斗をそまのこしく本国へかへるや地水火風空存　重信「懐子伽」ニ空存ノ発ニ目のねを求くやとしよりのうれむ月のねやうけぐまりトアレハ若年ニアラサルヘシ○或云門人ニアラス友ナリトモ

青雲　松木氏通称詳ナラス松木政則男ト云或云宗因ノ門下ニシテ幽山ノ友ナリトモ

蓮之　松木氏青雲男　呎尺。宗瑞。初代長水素丸。等友タリ　家書　水ぐるま

文雅　松木氏蓮之男　没年詳ナラス

八千夜　洛西嶋原奥村家ノ遊女名ハ尊子ト云吉野ニツヾキタル名妓殊ニ書ヲ善クス萬治寛文中。萬治三年ノ印本「ふところ子」ニ秀乃吟ヲ載タリ又同シ頃ノ書「可笑記」オヨヒ「東海道名所記」等ニ八千夜ノ事見エタリ

（可笑記元本ハ寛永板ニテ大本ナリコヽニ引用セシハ再板小本方）

武珍　複倉氏通称新八没年詳ナラス伊勢山田師職或云杉木望都門「百人一句」ノ一人

夏虫　伊藤氏通称詳ナラス大和國長楽邑ノ人或云貞室門人

夏虫女　夏虫ノ妻狂歌ニ名アリ

方救　平山氏通称孫兵衛名ハ直之家名ヲ奈良屋ト号ス大坂本町ノ人後薙髪メ方石アルヒハ不琢ト号ス「難波色紙百人一句」ニ入

方山

滝氏通称詳ナラス東六條御門主ノ家士ナリ招鳩軒ト号ス弱冠ヨリ法橋維舟ノ門弟タリ維舟没後似舟門人トナル且ツ由縁有テ荒木田守武ノ傳書ヲ得タリ初名峯山後芳山ニ改復方山ト改ム自應々翁ト称ス身長六尺有四寸疾歩ノ一日ニ三百里ヲ盡ス鬚ノ長サ尺餘白キ丁如芋前年遊行上人在京ノ日山其會上ニ詣ス人其鬚長ヲ見テ戯ニ視之都下コレヲ賞談ス　家書　此箱　枕屏風　曉山集等アリ享保十五年庚戌五月廿二日没壽八十

雲皷

堀内氏自ラ千百翁ト称ス五條橋東千観松片陰ニ寓ス迎光菴ト号ス本土大和ノ人後剃髪シテ法名ヲ助給ト云　家書　家の風　鹿聞　宿の松　夏木立　西國船　赤烏子　削り夢等アリ　享保十三年戊申五月二日没行年六十四
再按スルニ吉野ニ堀内閑節北邑季吟門人ト云人アリ此土ノ男歟

雲堂

川勝氏畔甘舍ト号ス又吹松菴ト云　享保十五年庚戌五月七日没壽七十

雲扇

井上氏俗称詳ナラス枯木菴ト号ス元如泉門人ニテ伏見ニ住ス犬水ト号ス後畔甘舍二世ヲ續テ今ノ字ニ改ム

貞扇

北川氏元浪花ノ人ニノオ麿カ門人タリ後居ヲ京師ニ移テ雲扇ニ屬ス東園舍ト号ス寛延三年庚午五月十六日没六十四歳

雲鈴

吉井氏吹簫軒ト号ス　家書　二日月アリ寛延四年辛未二月五日没行年七十八

雲峰

居初氏都塵舍ト号ス自年々翁ト称ス京師ノ人家書　頭陀袋　峰風　御伽櫻　傳授車　雲の臺等アリ寛延元年戊辰十二月十八日没行年七十一

海德

山本氏万亀堂ト号ス　延享二年乙丑三月十三日没行年四十四

鼓山 中村氏琴松堂ト号ス 延享四年丁卯九月廿三日没 行年四十六

和汐 北村氏一陽堂ト号ス初晩来ノ門人ニテ来没後吹簫軒門弟トナル

則風 紀氏通称詳ナラス京師ノ人家書 千八百韵大矢数 アリ或云 大矢数ハ紀子ニテ多武峯西院ノ僧トモ云

一見 永崎氏通称詳ナラス三楽ト号ス肥後熊本ノ人 家書 かゝみまく 肩入奉公 等アリ没年未考

元綱 罡部氏通称十左エ門岸和田人 或云江戸ノ住 新百人一句ノ一人

正恒 松村氏通称又左エ門後 吟松ト改ム東府ノ人

正甫 北峯氏通称詳ナラス土佐家ニ入テ画ヲ善ス泉州界ノ人

塵言 江口氏通称三郎左エ門奥州二本松ノ人 新百人一句ノ一人

延貞 高瀬氏通称詳ナラス 伊勢ノ國安濃津ノ人

任口 城南伏見東本願寺門下西岸寺ノ住職歌道ニ達シ連俳ヲヨクス拜北菴里村昌程（景益トモ云寛文六年没五十五歳）門人ナリト云俳道ハ維舟叟ニ随フト 没年詳ナラス貞享中ノ 續空栗 ニ曰「新年の御慶とハ中ちり八十年」ト云吟アリ時代ヲシラム

林元 水野氏奥州二本松人 新百人一句ノ一人

好元 日野氏奥州二本松ノ人 新百人一句ノ一人

安原貞室

○正好 安原氏通称弥兵衛 ○諸西 十左衛門

元次 安原氏貞室男通名詳ナラス蚤歳ヨリ英知ニメ出吟尤高シ 玉海集ニ多ク出ス 承應中十五歳ニ満ズシテ没衆人元次ヲ惜ヿ甚シ

貞恕 犬井氏俗称ハ治郎兵衛名重次薙髪メ貞恕ト改メ一嚢軒ト号ス四條東洞院ニ住ス本士ハ越前敦賀ノ人ナリ万治ノ頃

歿江州大津ニ寓居ス一年「いまうき世く八のひし落人トイヘルニ「道だしこゑいきりてきうて馬糞トニ云句附テヨリ大津ノ馬糞トイフ名ヲ得タリ室叟病テ歿センドスルニ及テ恕ヲ以テ花ノ本正傳三世トス　家書

爰ニ記スル附合ハ寛文七年印本　玉海集追加ニミタカフ許六韓録スル歷代滑稽傳ト異同アリ

蠅　もテ　貞室千句批言　茶杓竹返答　阿太知千句　新玉海集　等アリ　元禄十五年壬午三月四日歿行年七十歳上鳥羽邑實相寺墓アリ　家譜ニ宝永二年乙酉十月三日歿行年七十歳又　同書ニ「重次者重頼之従有故為貞室門人也青木春澄曽有幽契故後属恕云々」此説甚イブカシ貞恕若年ヨリ室叟ノ門葉タルコト　崑山集　玉海集ノ二集ヲミテモ明證タリ松江重頼カ集冊ニ恕ノ句一章モミエス

重満

犬井氏貞恕男　業スルニ　家譜　安静条下ニ重門ト云人アリコレ重満壮年改名スル所欤暫ク　新玉海集（延宝七年印本）　家譜ノ説ヲ交テコヽニシルス後人ノ考ヲ俟

乾峰

居初氏雲峯カ息初名松皷ト云外舅乾氏（犬井貞恕）重門翁ノ字ヲ祖（貞徳翁）ノ傳書ヲ以テコレヲ讓リ與フ故ニ乾ノ字ヲ以テ名トス云々又貞五堂ト号ス延享三年丙寅十月四日歿　行年三十四歳

二世 乾峰

雲峯カ外孫ニシテ乾峰カ嫂ナリ初扇峯ト号ス貞六堂ト称ス明和七年庚寅四月廿七日歿　四十七歳

三世 乾峰

居初氏貞六堂乾峯カ男初名乾雅貞七堂ト号ス幼ニシテ失父獨母ト居テ俳諧ヲ習ヒ長シテ父ノ統ヲ續ク家書　ニッ臼　一巻アリ住居八松原烏丸西エ入町

祖順

青木氏通称詳ナラス享保十六年辛亥九月十日歿行年未考上鳥羽邑實相寺ニ牌アリ法名カ堂貞眼居士

春澄

青木氏通称庄右衛門薙髮シテ貞悟ト号ス又印雪軒素心子ト称ス晩年自ラ之字翁ト号ス高倉二條

上ル町ニ住ス正徳五年乙未七月晦日没壽六十三

貞清

藤本氏通称詳ナラス延宝ノ新玉海集オヨヒ歴代滑稽傳
等ニ出タリ案スルニ藤本氏トアレハ恵佐男カ幼名ヲ久松ト云

貞佐

中川氏後水原（ミツハラ）ニ改ム一十軒ト号ス又自短頭公翁ト称ス初幸
佐門人後恕カ弟子トナル　家書　御傘集解　四鉾　过
等アリ延享四年丁卯十二月六日没行年六十有八
辞世　跡ハみづとしの瀬を切千鳥哉

八百彦

朝田氏百合カ息ナリ父没ノ後貞佐門人トナル十合斎ト号ス又
後扇翁ト称ス画ヲ善セリ油小路通御池下ル町ニ住ス　家書
百合追善集　安永六年丁酉三月九日没行年八十一
辞世　東へも西へも往らし花の空

十口

青木氏始廣瀬後柳氏ニ改ム又青木ト更ム意心斎ト号ス始ノ名ハ貞入付心又佐徳ト云後
今ノ名ニ更ム晩年清古閑人ト云家書　四季出會　旅亭記
秩穂　いとまがき　生植箋　禽獣解

行事祿　蔭のまひ　閑居友　拾遺家譜
後拾遺家譜　等アリ京師綾小路通大宮東入町ニ住ス　寛政
三年辛亥七月廿一日没行年六十九
辞世　親おへ医者のさゝやく袖しぐれ

喜雲

中川氏通称吉左衛門名重治或云重徳薙髪メートト号ス又
山櫻子ト称ス室叟高弟ナリ藝州廣島ノ人京師ニ住ス
家書　京童　跡追　都案内者ニ添アリ
鎌倉名所記　私加多咄　等アリ没年詳ナラス案
スルニ延宝中歟寛文七年跡追ニ高年ナルヨシ見エタリ

引牛

中川氏喜雲カ息元禄
年中ノ点者没年不詳

貞宜

神田氏通称左兵衛初名貞頼花樂軒或紅葉軒ト
号ス又自ラ蝶々子ト称ス江戸ノ人　家書　思出草
物忘草　たちぎゝ　松茸草　いこしき
當世男　等アリ没年不詳〇享保十七年印本前句附

江戸紫ト云冊子ニ蝶々子ノ名アリ此人ト八別人ナリ又諸書ニ中島貞宣ヲ同人トス名ノ同シキニヨリ混合セシ誤ナリ今鶏鵡集ヲ以テ改メ正ス事中嶋貞晨条ニイヘルガゴトシ

山人
神田氏貞宣妻女六俳仙ノ一人ナリ

二葉
神田氏貞宣男通称詳ナラス一年歳旦ニ「死ぬまではいきるまづゝ千々春」ト吟シテ當時上ノ五文字歳旦ニ八置ガタキヲ善クイヒオヽセタリト衆人嗟歎セシトゾ

尊明
服部氏通称猪兵衛江戸本郷ノ人

是計
薗井氏通称八郎兵衛江戸ノ人

頼直
藤本氏通称詳ナラズ河内綿郡ノ人

定信
玉木氏通称伊兵衛江戸ノ人

○右ノ外物忘草 明暦三年印本 思出草 寛文元年印本 等ニ門人多ク出タリコヽニ畧ス

善入
山本氏通称善兵衛京師東洞院ノ人

再按スルニ山本氏村山氏同人歟宝暦十年印本茶吏談下巻ニ吉見氏云ク初祇園ノ社ノ下山伏社ノ傍ニ住ストアリ尚考ベシ

○同時同名ノ俳士有リ宇治ノ住ニテ村山氏意計ト号ス又一号ヲ喜斎ト称ス茶道ニ達シ俳ヲ善ス寛文十二年印本来祈宗臣矣ノ大海集ニ秀吟多クイレリ

小督
善入妻貞室門弟 玉海追加 秀吟多ク入

栄春
井罡氏喜之カ母ナリ[illegible]ノ一人ニテ杉木光女栢原ノ捨女ニモ劣ラサルノオ女タリ夫ニオクレテ尼トナリト尼号ス其前ノ名没年等詳ナラス 案スルニ寛文ノ末延宝ノ始歟

喜之
井罡氏通称弥兵衛 友硯ト号ス性質淳雅ニシテ人ト交ラス四時ノナガメゴトニ母ト自ト共ニ行テ俳句ヲ吟シ刀自ガ楽ヲ見テ己ガ喜トストス実ニ深草ノ元政ニモ恥ザル風人ナリ

徳窓
駿州久能山徳音院住職法名没年未詳

和俊
延澤氏本姓ハ寺井氏通称詳ナラス破扇軒ト号ス江戸ニ住ス本士ハ尾州熱田人○書画便覧ニ延澤ヲ名トス大ナル謬也

恵佐

藤本氏通称久兵衛　為少久恵京師ノ人初貞翁批判ヲウケ翁没シ後貞室ニ属ストミニ［新百人一句］ノ一人

素讓

川地氏通称又兵衛名正量後ニ素讓ヲ素軒ト改ム　大佛妙法院[redacted]ノ家士［俳諧師手鑑］延宝四年印本ノ一人

貞因

榎並氏通称鯛屋善右衛門菓子ヲ造ルヲ以テ産業トス曽テ山城大掾ニ任ス　貞室天水鈔ヲ以テ因ニ授ク因机上ニ置テ朝夕コレヲ珍愛ス一号ヲ白后齋トミニ元禄十三年庚辰三月廿三日没　行年八十歳［浪花俳仙］ノ一人ナリ

貞柳

柳叟辞世ノ吟并肖像トモニ［家土産］ニ出タリ

貞因男通称善八或忠兵衛初名良因［家譜］ニ言因トアルハ誤ナリ後信乗薙髪シテ貞柳ト改ム油烟齋鳩杖子ト称ス又助榮亭。長生亭。珍菓亭。圓杲亭。清雲洞。等ノ諸号アリ復豊藏房信海ヲ師トシテ狂歌ヲヨクス　家書［家土産］［續家土産］等アリ　享保二十年乙卯八月十五日没ス行年八十一大坂下寺町[redacted]ニ墓アリ

辞世「百居てもおなじ浮世に同じ花月は身人九重八白妙

○再曰狂歌ノ一道貞徳。未得ト養。信海。行風。等専詠ズトイヘドモ未ヒロカラズ此叟出テ大盛ストイフベシ

貞峨

古書ニ初名昌因トアリ

貞因次男曽テ僧タリ黄檗悦山和尚ニ属ス後還俗シテ滑稽家ヲ立契因ト号ス後貞我菴貞峨ト改ム　家書［躍布袋］アリ　寛保二年壬戌十月四日没寿八十　再曰元禄ノ頃印行スル［金平物語］椀久末松山ナドイヘル浄瑠璃節ニ紀ノ海音トシレルセシハ此叟ノ隠号ナリ

潘山

塘氏百子堂ト号ス貞我ノ女ヲ娶テ其脉ヲ續ク浪花ノ人家書［橋ぜしら］［仙家の杖］［猫築波］［猿つくば］［餅月夜］［時雨乃橋］等アリ没年詳ナラズ

貞富

榎並氏貞因従弟花實菴ト号ス家名ヲ鯛屋ト称シ菓子ヲ造ヲ業トス南御堂前ニ住ス曽テ生白菴行風ト友トシ狂歌ヲヨクス正徳二年壬辰五月六日没行年七十有余

言聴

清水氏通称四郎左衛門京師ノ人没年詳ナラス

兼吉

廣瀬氏通称喜三郎北勢ノ富田ノ人始貞翁ニ教ヲウケ後貞室ニ随フ没年不詳 嵩田政雄 團友亦凉兎実名 カ撰メル元禄十二年ノ[古の我物]下巻ニ曰冨田廣瀬氏のかしわく「かゝらすれ五條ゟ州ゝり筌の篙」涼菟ト當座ノ吟アリ

萬蹄

關氏通称久兵衛

丹羽福知山ノ人

永吉

野澤氏通称與兵衛

越前ツルガノ人

西士 貞室ノ[五條百句品定]ノ一人ナリトイヘリ

路春

隅田氏

大坂ノ人

[浪花誹歌仙]ノ人ナリ

交云

垣内氏通称新太郎

播州姫路ノ人没年未詳

世耻

進藤氏通称理右衛門名ハ利政京師人

貞翁直弟ナリ翁没後貞室ニ属ス

春丸

臼井氏通称七郎兵衛 京師祇園ノ社人

没年詳ナラス[百人一句]ノ一人

貞陸

姓氏詳ナラス江戸ノ人菊岡沾凉ノ[綾錦]ニ曰「貞陸貞室門人品川ニ住ス云ゝ佐保介我ノ従弟ニテ後川越ニ移ル」ト案スルニ[同書]ニ介我ヲ載テ曰「介我云ゝ享保三戊戌六月十八日齢六十七ニテ没ス云ゝ」トアリ又皐月平砂 東岡貞佐門人 著ストコロ[雨形集]ヲミルニ貞陸寛延元年一百歳ナルヨシ賀ノ吟アリ今介我ノ没年ト参考スルニ年紀不合イカゝ

信光

吉岡氏了貞男通称七郎右衛門備中小田郡ノ人ナリ始メ貞徳翁ノ門弟タリ師翁没メ後貞室ニ属ストス

本也

玄竜甚左衛門ト云名ハ正安又玄竜軒ト称ス復自是ト号ス大坂御堂筋唐物町ニ住シテ華ヲ製シテ業トス没年詳ナラス

鶏冠井令徳

○妙仙尼 令徳妻女六俳仙ノ一人始名未考

○良忠 楓氏令徳弟欤

良次

鶏冠井令徳長子通称清右衛門

早世カ[鷹鬼玖波]以後集ニミエス

令富
令徳ニ男幼名清次郎壮歳ニ及テ作兵衛又半七ト改ム
初ハ良富ト云歌道ヲ善ス　元禄末頃没六十有余

令清
令徳三男通称
詳ナラス

令敬
村上氏通称詳ナラス名ハ正孝京師ノ人
家書　旅枕　四巻アリ。或云令慶

宗賢
小島氏通称總兵衛京師ノ人ナリ鈴木信房ト計リテ
源氏鬢鏡　二巻ヲ著ス　元禄五年書目録ニ撰者素柏トアリ大ナル誤リナリ　源氏句合　又ハ　道芝　ナト同本別刊ナリ
貞享二年　京羽二重　ニ小島徳右衛門ト有ハ別人歟

信房
鈴木氏通称左兵衛今出川大宮西入町ニ住ス令徳没シテ
梅盛ニ属ス　家書　茄子喰さし　三ツ物　等アリ

如貞
井口氏通称詳ナラス貞竹堂ト号ス浪花間サ堀ニ住連歌ヲ以テ
職トス　家書　小川千句　アリ没年詳ナラス

一晶
芳賀氏通名順益名治貞(イ有)冥霊堂崑山翁ト号ス京師ノ人
令徳没シテ後常矩ニ従ヒ後東武ヘ下リ芝又両替町ニ下居
シ醫術ヲ以テ業トス初令徳翁ヨリ崑山ノ印ヲ附属メ

在世コレヲ用ユ又繪ヲ能スヲカ藏スル所ノ一軸菱川師宣
長子師房カ風アリ　家書　如何　万水入海
いぶつか　丁卯集　一茎重山　八宗懸隔
等アリ　宝永四年卒ス行年六十有余

斧鉞
藤本氏羽仙齋ト号ス江戸石町ニ住ス
享保初頃没ス　行年未考

虚堂
神尾氏

伊人
江戸ノ人

友我
古跡氏通称久米之助尾州ノ人慶安四年印本　尾陽句帳
ニ秀吟多ク入レリ没年詳ナラス

夕翁
一原氏通称詳ナラス尾州名古屋ノ人　或云貞翁直弟ト
モ云　新續獨吟集　印行年号ナシ案スルニ延宝歟　ニ貞徳翁判ノ百韻アリ
摂州大坂初瀬町東願寺ノ末寺了安寺ノ住職法名單念
復單信ニツクル　或云貞徳翁直弟トモ　没年詳ナラス
案スルニ延宝ノ末天和ノ初頃歟　俳諧師手鑑　ニ出ス

友三
奥西氏通称市左衛門
名ハ義茂京師ノ人

谷風
中村氏通称詳ナラス
家書 九日鼠 一巻アリ

瑞竿
石川氏
京師ノ人

常春
服部氏通称詳ナラス眠柳亭ト号ス元禄四年 印本江水
撰メル當世百人一句ノ人正徳五年 乙未八月十三日没行年 七十二

常英
服部氏常春ノ息父ノ後ヲツギテ眠柳亭ト号ス
没スル年詳ナラス

延清
志水氏通名詳ナラス恕近子ト号ス後出家メ日柳ト云
享保十九年甲寅五月十六日寂ス行年六十九
辞世「いつとても息引とるが身の歳暮

安山
河野氏通称詳ナラス鶴毛翁ト号ス 元文三年戊午
七月三日没 行年六十五

和吟
別所氏名字詳ナラス或云常英門人ナリト宝暦八戊寅年正月
三日没行年七十三辞世 寐よなりて西をかみるも初旦

暢好
平岡氏文蛤子ト号ス享保十六年辛亥十月二日没行年四十歳
辞世「をゝこ一季入ちてぬ夢のおつとうの那

経定
山本氏規矩妙子ト号ス 享保十九年甲寅二月廿六日没
行年四十八

歌鳥
隠僧春朴ト号ス享保十六年 辛亥正月十六日寂ス
齢四十有六京師ノ住

之水
細井氏成江堂ト号ス宝暦十一年 辛巳六月二日没行年 七十三
辞世 随縁の浪よちやうぬ夏の箱

二世 之水
細井氏之水息明和六己丑年九月九日没四十四未期門人等請句
書円形投筆死スト云々

重後
西村氏通称次左衛門初名重直京師ノ人
家書 名所付合集アリ

愚堂

人見氏俗称詳ナラス芥耳軒ト号ス　享保十五年庚戌七月十七日没行年四十八

虚舟

黒瀬氏不識亭ト号ス虚舟ノ字尊貴ノ謚号ニ類ス故ニ後去舟ト改公明和六己丑年六月十六日没寿八十　辞世不来不去佛祖戯論未後一句日日日新　底ぬけやうくらぬ旅の阿陀ふくろ

定房

廣岡氏俗称ハ紅屋弥兵衛薙髪シテ宗信柳雨軒ト号ス　浪花ノ人

浪花俳歌仙ノ一人

自安

姓氏詳ナラス真笑軒ト号ス京師ノ人

行誓

京師勝満寺住職

新百人一句ノ一人

富長

橋本氏京師ノ人

満重

福地氏

京水

鳥川氏

誹家大系圖上之巻　畢